

子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ

子どもゆめ基金

ガイド2023

— 改訂版 —

採択情報満載！

こんな使い方がある！
助成活動事例を紹介

子どもゆめ基金
申請までの流れ



子どもの体験活動・読書活動への助成を行っています



National Institution For Youth Education

独立行政法人 国立青少年教育振興機構



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

「子どもゆめ基金」について
 「子どもゆめ基金」の概要 1
 子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ
 - 申請までの流れ - 3
 子どもゆめ基金ガイドの活用方法
 - 申請のワンポイントアドバイス - 4
 子どもゆめ基金助成活動情報サイトのご紹介 5
 持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた活動を
 支援しています 6
 令和4年度助成活動事例

■子供の体験活動■

【自然体験】
 里山でのチャレンジ・春の自然体験教室 2022
 実施団体 / 特定非営利活動法人 緑の郷及び冒険こどもクラブ 8
 デフ・アドベンチャー・キャンプ 2022
 実施団体 / ろう・難聴児の体験活動を支える会 10

【科学体験】
 科学実験教室「土の教室ー土のふしぎを解き明かし、
 SDGsを考えよう」
 実施団体 / 特定非営利活動法人 けやの森自然塾 12

【交流体験】
 Let's アクション！ みんなで作ろうコマ撮りアニメ
 実施団体 / ツインクル・プラン 14
 子どもがつくるまち「ミニいちかわ 2022」
 実施団体 / 特定非営利活動法人 市川子ども文化ステーション 16

【社会奉仕】
 北上川清掃
 実施団体 / 北上川フィールドライフクラブ 18

【職場体験】
 こども工務店
 実施団体 / こども工務店富山実行委員会 20

【総合・その他の体験】
 山・川・海をつなぐ漁業体験と食育体験
 実施団体 / 社会福祉法人 大和育成園 22

■子供の読書活動■

【読書活動】
 絵本専門士のたのしいおはなし会
 実施団体 / NPO法人 絵本文化推進協会 24

■教材開発・普及活動■

【教材】
 発掘（はっくつ）って遺跡（いせき）だけじゃない！
 コモンジョ（古文書）を発掘して「昔」から自分の
 ことを発見してみよう
 実施団体 / 武蔵野大学 古文書研究室 26

子ども向け教材開発・普及活動への申請を
 お考えの方へ 27

普及啓発事業の事例
 日中韓子ども童話交流事業 28
 ミクロネシア諸島自然体験交流事業 29

体験活動の重要性～私たち大人にできることは？～ 30
 「体験の風をおこそう」運動とは 32
 「早寝早起き朝ごはん」国民運動 33
 体験・遊びを紹介する YouTube チャンネル体験ちゃん 34
 申請・採択状況 35
 ご寄附のお願い 36

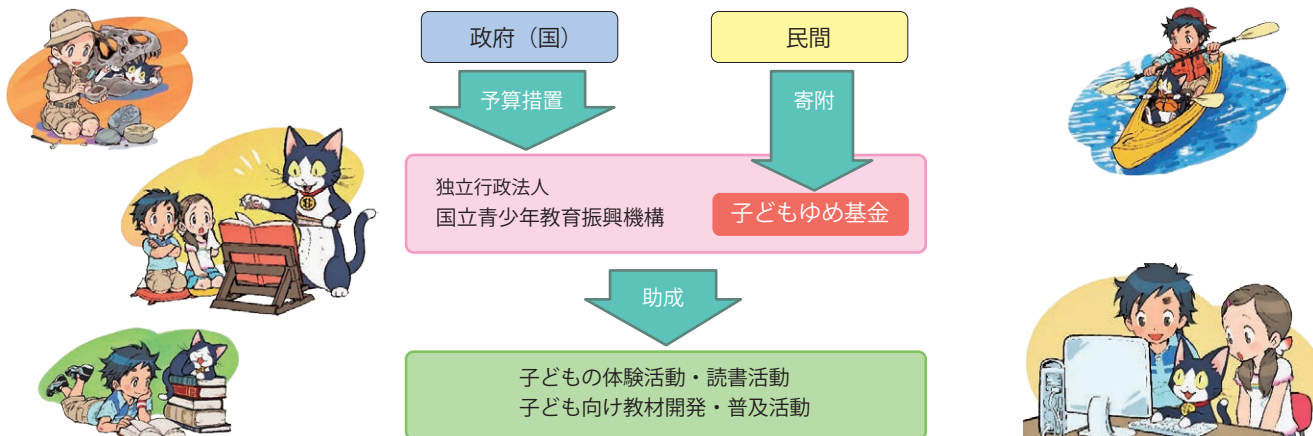
「子どもゆめ基金」について

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子供の未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

かつての子供たちは、自然の中や地域において様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていました。しかしながら、今の子供たちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからない「無重力状態」であるとともに、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘もあります。（平成25年度中教審答申より）

体験活動に関する調査（国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」）では、「子供の頃の体験活動が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」、「体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身につけており、自己肯定感も高い傾向にある」など、子供の頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を担う夢をもった子供の健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

■助成金の交付■

助成の対象となる活動

分野	種類			
	子どもを対象とする活動		子どもを対象とする活動を支援する活動	
	子どもを対象とする活動	経済的に困難な状況にある子どもを対象とする活動	フォーラム等普及活動	指導者養成
自然体験活動	豊かな自然を活用した屋外活動等		体験活動や読書活動の普及啓発を図る講演会やフォーラム等	体験活動や読書活動の指導者・ボランティアとして活動する方を養成する研修会等
科学体験活動	科学実験教室等			
交流を目的とする活動	集団活動を通じた意図的な子ども同士の交流体験等			
社会奉仕体験活動	地域の活性化につながる社会活動や清掃等			
職場体験活動	地域の商店街・農業等の職業体験			
総合・その他の体験活動	複数の分野を意図的・計画的に組み合わせた活動			
読書活動	読み聞かせ会・読書会等			

助成の対象とならない活動(抜粋)

- 国又は地方公共団体等が実施する活動
 - 国又は地方公共団体等との「共催」で実施する活動
 - 他の機関・団体等から委託（指定管理）を受けて行う活動
 - 学校の授業や行事の一環として行う活動
 - 国又は国が出資した基金等に助成金等の申請を行う活動
(例：芸術文化振興基金、スポーツ振興基金、社会福祉振興助成事業、地域と学校の連携・協働体制構築事業等)
- ※地方公共団体の補助金・助成金を併用することは可能です。

助成の対象となる団体

社団法人、財団法人、NPO法人、法人格を有しない地域のグループ・サークル等、青少年教育に関する活動を行う民間の団体が助成の対象となります。

助成の額と審査方法

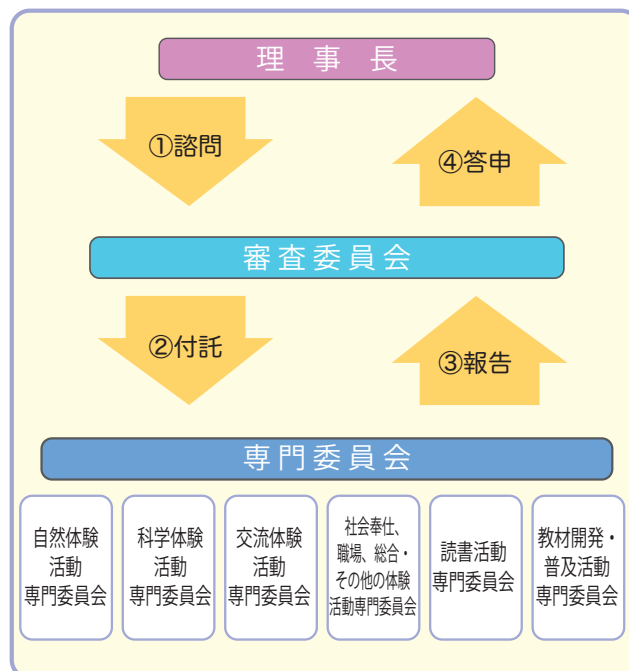
子どもゆめ基金では、体験活動等の分野において実務経験を持ち、青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、審査を行います。

その審査にあたっては、各団体から提出された申請書を専門的見地から合議により評価し、採択する活動及び助成金額を決定します。

活動規模	参加者を募集する範囲	限度額
全国規模	24都道府県以上で募集	600万円
都道府県規模	全国規模以外で、都道府県全域または、都道府県を超えて募集	200万円
市区町村規模	上記以外で、市区町村単位または、複数の市区町村にて募集	100万円

- 1活動あたりの助成金の額は、2万円～限度額
- 活動実績のない新規団体は、原則として限度額の1/2を上限とします（一次募集のみ）。

審査方法



「子どもゆめ基金」の概要

■ 経済的に困難な状況にある子どもの体験活動や読書活動への助成 ■

背景

我が国の子供の相対的貧困率は、年々上昇しており、世代を超えた「貧困の連鎖」が指摘されるなど、子供の貧困は喫緊の課題であるとして、平成 26 年 8 月に「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定（令和元年 11 月改訂）され、国において総合的な取組が推進されることとなりました。このような国の動向を踏まえ、子どもゆめ基金では経済的に困難な状況にある子供たちを対象に以下の取組を始めました。

取組の概要

民間団体が、経済的に困難な状況にある子供を対象とした体験活動や読書活動を行う場合、通常は助成対象外とされている参加者の交通費・宿泊費などの自己負担経費について、特に助成の対象とすることで、参加する子供の負担が軽減されるようにしました。その結果、令和 5 年度子どもゆめ基金助成活動には、114 件の申請があり、このうち貧困対策に適合した申請を 95 件採択しました。（一次募集分のみ）

助成の対象となる活動

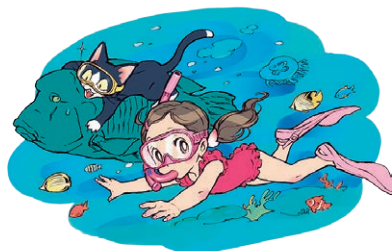
この助成の対象となる活動は、以下 1、2 のとおりです。

1. 民間の児童養護施設や母子生活支援施設及び一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会並びにこれに加盟する母子福祉団体が行う体験活動や読書活動
2. 上記 1. 以外の民間の機関・団体が、経済的に困難な状況にある子供の健やかな育成を目的として、児童養護施設や母子生活支援施設、地方公共団体などと協力して行う体験活動や読書活動

詳しくは、子どもゆめ基金募集案内をご覧ください。子どもゆめ基金までお問い合わせください。

■ 普及啓発 ■

子どもゆめ基金では、子供の体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。
(子どもゆめ基金ガイドの作成、普及啓発事業の実施等)



「子どもゆめ基金」の申請をお考えの方へ

申請までの流れ

Q 企画立案は
どうすれば？

「どんな活動があるのかな？」

→子どもゆめ基金ガイドを読んで、これから企画する活動の参考にしてみましよう。

◎過去の子どもゆめ基金ガイドもホームページからご覧になれます。

URL:<https://yumekikin.niye.go.jp/download/kouhou.html>



Q 実際に申請
してみたい…

「子どもゆめ基金のことがもっと知りたい！」

→子どもゆめ基金募集説明会に参加してみませんか？

◎令和6年4月～5月にかけて全国約40会場で実施しています。会場では、申請のガイドンスや個別質問回答コーナーを設けています。詳しくは子どもゆめ基金ホームページをご確認ください。

◎令和6年度の二次募集では「子どもを対象とする活動」に限り、全国・都道府県規模の申請が可能になります。また申請件数も3件→5件に増え、活動規模に応じた助成限度額も増額されます。

◎令和6年度二次募集助成金の規模と限度額

活動規模	参加者を募集する範囲	募集対象となる活動	限度額	申請件数
全国	24都道府県以上で募集	子どもを対象とする活動のみ	300万円以下	5件まで
都道府県	全国規模以外で、都道府県下全域または、都道府県を超えて募集		100万円以下	
市区町村	上記以外で、市区町村単位または、複数の市区町村にて募集	すべての活動	50万円以下	

◎さらに、申請にあたってわからないことや相談したいことがあれば、子どもゆめ基金までご連絡ください。

メールでのお問い合わせ： yume@niye.go.jp

電話でのお問い合わせ： 0120-57-9081 月～金 9:00～17:45

Q 募集期間は？

「子どもゆめ基金の募集期間」

二次募集期間 電子申請 令和6年5月1日（水）～6月18日（火）17:00 締切

◎初めて電子申請される場合は、申請の前にID申請が必要となります。



募集案内は、
子どもゆめ基金ホームページから
ダウンロードできます。

教材開発・普及活動に申請をお考えの方は、26ページへ

「子どもゆめ基金」ガイドの活用方法

申請のワンポイントアドバイス

活動例を読んだら団体のメンバーと相談して、企画してみましょう!

STEP 3

STEP 5

STEP 1

STEP 5

STEP 4

STEP 2

令和4年度 活動事例

子どもがつくるまち「ミニいちかわ2022」

<実施団体> 特定非営利活動法人 市川子文化ステーション

※活動期間 令和4年7月3日(日)～10月23日(日)

※活動場所 市川市 行政センター

※募集対象 小学生(1～6年生)、中学生、高校生

※募集方法 サラシ(販売先:市内小・中学校、公民館、図書館、図書館ポスター(販売先:市内小・中学校、公民館、図書館、商店)広報紙(発行機関:行政機関に依頼)会館からホームページに掲載

※募集定員 54名

活動を通してのSDGsへの取り組み

子どもたちがチャレンジできる場を作り、様々な力を発揮することを期待するとともに、持続可能な開発目標(SDGs)「貧困の撲滅をみんなに」(4)に取り組んでいます。まちの仕事を子どもたちにも体験してもらい、持続可能なまちづくりの推進に貢献する活動を行います。持続可能な開発目標(SDGs)「いのちの豊かさでめざそう」(15)に取り組んでいます。

活動のねらいとポイント

まちのまちを通じて異世代交流する機会を作り、自分で考え行動し、その結果を報告する機会を確保することでコミュニケーション力と自己決定感を育む。事前公募した子どもたちの発案でまちづくりを行った。

具体的なプログラム名	主なポイント
課題解決・まちづくりプログラム	子ども会議:まちのしくみ・安全・衛生・環境・スタッフの役割を考える会議。参加者は:市民団体の呼び、仕事を学び、意見を自分で考え自由に発言できる。ポスターや提案書が完成したまちづくりの成果を展示する。チラシや実践は成長のチャンスが増える。
子どもスタッフ会議・まちづくり・コミュニケーションワーク	実践したいことに向けてアイデアを出し合い、まちを改善するアイデアを。議題は子どもたち自身で話し合い、議題への企画書を準備する。参加者の中にアイデア、創意を発揮し、自己決定すること、他者を助け合おうと意識し、大切さを理解し、わくわくするまちにするためのワークを行う。
アイスブレイク	子どもスタッフがワークショップを楽しく実施できるように、会場の前にコミュニケーションゲームを実施する。

参加者の安全対策・健康管理

※安全対策 会場の危険箇所のチェックを事前に実施する。発着時の入り口・乗り場を狭く、危険行為や不審行為について定期的に参加者が見回るとともに、移動交通の混雑を監視し安全対策を行う。ブース内において飲料の消費を注意的に行う。

※健康管理 定期的に参加者の体調確認を行い、マスクを都度着用して活動を実施する。暑い環境を避ける。各ブースでは仕様の前後に手洗いの消毒を行う。水分補給やマスクを外すことの大切さを伝える。団体構成が各ブースで健康観察を行う。関係アセスに同意できるスタッフを配置し、緊急時に備える。

交流体験

活動の日程・内容

月/日	時間	プログラム内容
7/3	13:30～16:00	まちづくりワークショップ「アイデア出し、実践、1日の活動の振り返り」(市内小・中学校、公民館、図書館、公民館ポスター(販売先:市内小・中学校、公民館、図書館、商店)広報紙(発行機関:行政機関に依頼)会館からホームページに掲載)
7/24	13:30～16:00	まちづくりワークショップ「アイデア出し、実践、1日の活動の振り返り」(市内小・中学校、公民館、図書館、公民館ポスター(販売先:市内小・中学校、公民館、図書館、商店)広報紙(発行機関:行政機関に依頼)会館からホームページに掲載)
8/24	13:30～16:00	まちづくりワークショップ「アイデア出し、実践、1日の活動の振り返り」(市内小・中学校、公民館、図書館、公民館ポスター(販売先:市内小・中学校、公民館、図書館、商店)広報紙(発行機関:行政機関に依頼)会館からホームページに掲載)
9/11	13:30～16:00	まちづくりワークショップ「アイデア出し、実践、1日の活動の振り返り」(市内小・中学校、公民館、図書館、公民館ポスター(販売先:市内小・中学校、公民館、図書館、商店)広報紙(発行機関:行政機関に依頼)会館からホームページに掲載)
9/18	13:30～16:00	まちづくりワークショップ「アイデア出し、実践、1日の活動の振り返り」(市内小・中学校、公民館、図書館、公民館ポスター(販売先:市内小・中学校、公民館、図書館、商店)広報紙(発行機関:行政機関に依頼)会館からホームページに掲載)
10/2	13:30～16:00	まちづくりワークショップ「アイデア出し、実践、1日の活動の振り返り」(市内小・中学校、公民館、図書館、公民館ポスター(販売先:市内小・中学校、公民館、図書館、商店)広報紙(発行機関:行政機関に依頼)会館からホームページに掲載)
10/9	13:30～16:00	まちづくりワークショップ「アイデア出し、実践、1日の活動の振り返り」(市内小・中学校、公民館、図書館、公民館ポスター(販売先:市内小・中学校、公民館、図書館、商店)広報紙(発行機関:行政機関に依頼)会館からホームページに掲載)

活動の成果と課題

子どもスタッフ会議では、まちづくりワークショップ、市民団体の呼び、仕事を学び、意見を自分で考え自由に発言できる。ポスターや提案書が完成したまちづくりの成果を展示する。チラシや実践は成長のチャンスが増える。

実践したいことに向けてアイデアを出し合い、まちを改善するアイデアを。議題は子どもたち自身で話し合い、議題への企画書を準備する。参加者の中にアイデア、創意を発揮し、自己決定すること、他者を助け合おうと意識し、大切さを理解し、わくわくするまちにするためのワークを行う。

子どもスタッフがワークショップを楽しく実施できるように、会場の前にコミュニケーションゲームを実施する。

安全対策:会場の危険箇所のチェックを事前に実施する。発着時の入り口・乗り場を狭く、危険行為や不審行為について定期的に参加者が見回るとともに、移動交通の混雑を監視し安全対策を行う。ブース内において飲料の消費を注意的に行う。

健康管理:定期的に参加者の体調確認を行い、マスクを都度着用して活動を実施する。暑い環境を避ける。各ブースでは仕様の前後に手洗いの消毒を行う。水分補給やマスクを外すことの大切さを伝える。団体構成が各ブースで健康観察を行う。関係アセスに同意できるスタッフを配置し、緊急時に備える。

団体概要 <http://kodomoblog.jp>

STEP 1 「活動の目的」を考えてみましょう

1. 活動を通じて、参加者に伝えたい・感じてほしい・身につけてほしいことは何でしょうか。
2. 活動の目的やねらいを達成するためにどのような工夫ができるでしょうか。
3. 目的やねらいを達成する内容・ポイントは、活動プログラムのどの部分に盛り込みますか。

STEP 2 「活動終了後の成果」を考えてみましょう

1. STEP1で考えた、活動の目的・ねらいが、どのように参加者の成長につながるかイメージしてみましょう。
2. 参加者の成長から、どのようなことが得られるでしょうか。団体の成長・発展について考えてみましょう。

STEP 3 具体的に活動内容を考えてみましょう

1. 参加者の興味を引きそうな活動名を考えてみましょう。
2. 活動の対象者・募集人数・日程・活動の概要を考えてみましょう。

STEP 4 「活動プログラム」の予定を組んでみましょう

1. STEP1~3で考えた内容を取り入れて、活動プログラムの1日の流れを考えてみましょう。
2. プログラム全体の運営は誰が担当するか、外部指導者は誰に依頼するか考えてみましょう。
3. 参加者の安全・体調管理にも留意しながら、タイムスケジュールを作成してみましょう。

STEP 5 SDGs 達成に向けた活動の取り組みについて考え、行動してみましょう。

1. 持続可能な開発目標(SDGs)に対する各団体の取り組みを参考に、自分たちが取り組める持続可能な開発目標(SDGs)について考えてみましょう。(P.6「持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた活動を支援しています」参照)
2. 持続可能な開発目標(SDGs)の達成のための取り組みを実施してみましょう。

4

「子どもゆめ基金」助成活動情報サイトのご紹介

「子どもゆめ基金助成活動情報サイト」

<https://pr.yume.niye.go.jp>



こんな方にオススメ！

- 子どもゆめ基金助成活動情報サイトでは、北海道から沖縄まで当該年度に採択された助成活動がすべて掲載されています。その数約 5,000 件。
※助成団体からチラシが提出され承認されたら、掲載になります。
- 全国各地の体験活動や読書活動、フォーラム、指導者養成活動を見つけることができます。
- 次の方々にオススメです。
 - ・子供に様々な体験活動をさせたい方
 - ・助成金申請を検討している方
 - ・他の助成団体の活動を見てみたい方
 - ・自分自身の興味・関心を深めたいという方
- 参加費のかからない活動も多数あります。
- 子どもゆめ基金助成活動の中から、普段の生活の中ではなかなか味わうことのできない感動や、一生心に残る体験をしてみたい方はいかがでしょうか。

ポイントは？

- キャンプなどの自然体験活動、実験教室やものづくり・プログラミングのワークショップなどの科学体験活動、異年齢・異世代・地域間等の交流活動、おはなし会やストーリーテリングなどの読書活動、その他さまざまな遊びや体験から、好きな活動を選ぶことができます。
- スマートフォン、タブレットからも利用可能です。
- 活動の分野・種類など、さまざまな検索方法で、やってみたい体験を簡単に探すことができます。

検索方法は？

- 1 **開催地域**
ブロック、都道府県から選ぶことができます。
- 2 **開催日**
クリックするとカレンダーが表示されますので、開催日を指定することができます。
- 3 **活動の分野・種類**
助成の対象となる活動の分野・種類から選ぶことができます。
- 4 **募集対象**
活動への参加対象を選ぶことができます。(複数選択可)
- 5 **参加費**
無料・有料から選ぶことができます。
- 6 **これから参加できる活動を紹介しています。**



気になる項目にチェックを入れていただき、
『検索』ボタンを押すと、検索結果が表示されます。

国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金は 持続可能な開発目標（SDGs）達成に 向けた活動を支援しています。

持続可能な開発目標（SDGs）の詳細



目標1【貧困】

あらゆる場所あらゆる形態の
貧困を終わらせる



目標2【飢餓】

飢餓を終わらせ、食料安全保障
及び栄養の改善を実現し、
持続可能な農業を促進する



目標3【保健】

あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4【教育】

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い
教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



目標5【ジェンダー】

ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女児の
エンパワーメントを行う



目標6【水・衛生】

すべての人々の水と衛生の利用可能性と
持続可能な管理を確保する



目標7【エネルギー】

すべての人々の、安価かつ信頼できる
持続可能な近代的なエネルギーへの
アクセスを確保する



目標8【経済成長と雇用】

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての
人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある
人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する



目標9【インフラ、産業化、 イノベーション】

強靱（レジリエント）なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進
及びイノベーションの推進を図る



目標10【不平等】

国内及び各国家間の不平等を是正する



目標11【持続可能な都市】

包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で
持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標12【持続可能な消費と生産】

持続可能な消費生産形態を確保する



目標13【気候変動】

気候変動及びその影響を軽減するための
緊急対策を講じる



目標14【海洋資源】

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を
保全し、持続可能な形で利用する



目標15【陸上資源】

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利
用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠
化への対処ならびに土地の劣化の阻止・
回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標16【平和】

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会
を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提
供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責
任のある包摂的な制度を構築する



目標17【実施手段】

持続可能な開発のための実施手段を
強化し、グローバル・パートナーシップを
活性化する



SDGsの実現に貢献する 「持続可能な開発のための教育(ESD)」の紹介



持続可能な開発のための教育(ESD)とは

ESDとは、持続可能な社会の創り手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育であり、2002年に我が国がはじめて提唱した考え方です。現在、国際連合(国連)の専門機関であるユネスコ(国連教育文化科学機関)や世界各国において、ESDの取組が推進されています。

ESDは、環境教育はもちろん、国際理解、文化多様性、人権、平和等の個別分野を持続可能な開発の観点から統合させ、分野横断的に行われております。

また、SDGsの全てのゴールの実現への貢献により、公正で持続可能な世界を目指す「ESD for 2030」という新たな国際枠組みが、国連総会において採択され、2021年5月のESD世界会議をキックオフとして、本格始動しています。

一緒に、SDGsの実現に貢献するESDの取組をはじめませんか。

第4期教育振興基本計画について

2023年6月に、5年間の国の教育政策の方針と施策を示す第4期教育振興基本計画が閣議決定されました。総括的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられ、今後の教育政策に関する5つの基本的な方針や今後5年間の教育施策の目標と基本施策に、ESDの推進が掲げられています。

ESD推進のための手引の
二次元コードはこちら



持続可能な開発のための教育(ESD)推進のための手引

学校現場でESDの実践を進めていただけるよう、ESD実践のためのカリキュラム・デザインや、学校内外での連携方法の促進について、具体的な取組事例を含めて解説しています。詳しくは、二次元コードをご覧ください。

「ユネスコ未来共創プラットフォーム」ポータルサイト
二次元コードはこちら



文部科学省「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」のポータルサイトでは、ESDをはじめとした全国各地の学校や民間団体等のユネスコ活動や、各種ユネスコ登録事業を掲載していますので、あわせてご覧ください。



施設で重点的に
取り組む開発目標

『国立妙高青少年自然の家』の ESDを通じたSDGs達成への活動



当施設は、様々な関係者とパートナーシップを築き、森林環境学習プログラムである「みどりの学習」を通して、未来を生きる青少年が活躍できる持続可能な社会の実現に貢献することができるように努めています。

アクション①

～ESD/SDGsに通じる
思いやりのリレー運動～



当施設は、持続可能な社会の実現を目指し、次に利用する人のために「思いやりのリレー運動」を実施しています。また、館内にはいつでも誰もがSDGsを学べるSDGsオリエンテリングを設置しています。

アクション②

～みどりの学習プログラムの開発～

森探検



森の中を歩いて植物や動物を観察し、季節ごとの変化や生物の多様性、共通性について学び、森の豊かさを守ります。

源流探検



上流に向かって沢を遡り、川の始まりを探ったり、森林と水、生き物との関わりについて学び、水の大切さや海の豊かさを守ります。

スノーシューハイク



雪原を歩きながら生き物の痕跡や、雪の中で生きる姿を観察し、生き物と環境の関係について学び、持続可能な未来を考えます。

アクション③

～地域と連携・協働した取組～



妙高市SDGs普及啓発実行委員会に参画し、地域と連携・協働しSDGsの普及啓発に取り組んでいます。また、教育委員会と連携した事業では特定外来生物であるオオハシゴソウの除去を行い、施設内の自然環境を整備しました。パートナーシップでSDGsの目標を達成します。



〒949-2235 新潟県妙高市大字関山6323-2 Tel:0255-82-4321 Fax:0255-82-4325



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



施設の情報発信しています

里山でのチャレンジ・春の自然体験教室 2022

<実施団体> 特定非営利活動法人 緑の郷及び冒険こどもクラブ

- 活動期間 令和4年4月29日(金)～5月1日(日)
宿泊1回(2泊3日)
- 活動場所 兵庫県赤穂郡香上群町八保乙(緑の郷・上群)
- 募集地域 吹田市及び近隣市
- 募集対象 小学生(1～6年生)、中学生
- 募集方法 チラシ
- 構成員数 10名

活動を通してのSDGsへの取り組み

特定非営利活動法人緑の郷及び冒険こどもクラブでは、自然の中でのプログラムを通して男女で班を分けたりせずに男女混合の班をつくって共同で生活することにより、持続可能な開発目標(SDGs)5「ジェンダー平等を実現しよう」に取り組んでいます。

活動のねらいとポイント

異年齢の子どもたちが、年長者を中心に協力して設営や自炊など共同での生活をする中で、人間的成長を図り、里山の豊かな自然の中でのプログラムを体験する中で自然愛護の精神や自立心、生きる力を育む。



野外テーブル作りの様子

2022.04.30



夕べのつどいの様子

2022.04.29

具体的なプログラム名	主なポイント
異年齢班での生活、食事は全て自炊	異年齢の参加者で構成された班で、協力して生活やプログラムを行い、食事は全て自分達で作ったカマドや野外工作で行うなど、自立した生活を経験させる。
里山での自然探検、昆虫採集	子どもなら誰でも興味ある探検をし、環境整備など自然愛護の精神を育む。野生動物(鹿)との共生も考えさせ、昆虫採集にもチャレンジする。
農作業体験	日頃の食事を考えさせ、自然環境に左右される農業の重要性を考えさせる中で、子どもたちにの農業に興味を持たせ、畑作業にもチャレンジさせる。

参加者の安全対策・健康管理

<安全対策> 自然の中は危険が一杯であるため、あらゆる危険を想定してプログラムを企画し実施する。また、特別に配慮を要する参加者のために、人員を配置する。

<健康管理> 参加者から綿密な健康調査票で調査を行い、保護者にも問い合わせをする。実施中は朝のつどい、夕べのつどいで調査をする。



自然体験

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
4/29	8:00~11:40	受付 出発 活動場所到着
	12:30	オリエンテーション 昼食 入郷式
	13:00	午後のプログラム（ロープワーク、野外テーブルを作る） 夕食
	20:30	夜のプログラム（タベのつどい） 入浴
	21:00	消灯
4/30	6:00~8:30	起床 朝食 朝のつどい
	9:00	午前のプログラム（野外テーブル作り、畑作り、）敷地内でタケノコ掘り
	13:00	午後のプログラム（サツマイモの植え付け、班会議、キャンプファイヤーの相談） 昼食
	19:00	夕食
		夜のプログラム（キャンプファイヤー、タベのつどい） 入浴
	21:30	消灯
5/1	6:00~8:00	起床 朝食 朝のつどい
	9:00	午前のプログラム（撤営、撤収） 清掃
	11:00	借用備品返却 室内清掃 昼食
	12:30	ふりかえり 退去式
	13:40~16:50	出発 吹田へ到着

自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

活動の成果と課題

感染症流行の時期でも、希望者は13名とほどよく間隔を空けられる人数となりました。畑作業はリピーターが半数参加していたのでスムーズにでき、忍耐強く一生懸命に取り組んでいました。社会情勢にも天候にも恵まれず、1日目の大雨のためにカマドを作ることができず、自炊はカセットコンロを使用したり、テントで休むことができませんでしたが、参加者にはこまやかな指導ができて主たる目的は実施できました。また、時間を作って予想外の雨後のタケノコをみんなで収穫し、味わうことができました。



畝作りの様子



調理中の様子



雨後のタケノコ（カレーの具になりました）

職場体験

総合・その他
の体験

読書

団体概要

<設立年月> 平成12年12月に設立し、翌年3月に大阪府から承認されました。

<設立の経緯> 昭和56年に創立した吹田市青少年協会の中に創立しました。

<目的> この団体は、文部科学省がかつて実施した2週間の長期子ども自然体験村実施の受け皿として結成し、事業の終了後も組織として無人島体験キャンプをこれまで実施し、5年前から現在地で実施しています。今年で40回になります。

<構成> 構成メンバーは約10名で古くからのメンバーは理事のみ。後の構成員は子どもが活動に参加したのをきっかけに、時々スタッフとして参加してくれています。コロナ感染症をきっかけとして、活動そのものが先細りになっています。

70代2名、50代2名、40代4名、10代1名

教材

デフ・アドベンチャー・キャンプ2022

<実施団体> ろう・難聴児の体験活動を支える会

- 活動期間 令和4年8月16日(火)～8月24日(水)
日帰り1回、宿泊1回(8泊9日)
- 活動場所 静岡県立朝霧野外活動センター
- 募集地域 東京都と静岡県
- 募集対象 小学生(5～6年生)、中学生
- 募集方法 チラシ(配布先:東京都および静岡県のろう学校)
- 構成員数 13名

活動を通してのSDGsへの取り組み

キャンプ生活を通して、環境に影響を与えないこと(洗剤など)や資源を大切に使うこと(薪など)、使い捨てを最小限にすること、食べ物を大切にすること、などについて体験的に理解することにより、SDGsの6、12、15に貢献しています。

活動のねらいとポイント

ろう・難聴児がストレスなくコミュニケーションできるよう、手話を使うなど「通じる」環境を整えたくてダイナミックな自然体験活動、長期の生活体験を提供し、挑戦する気持ちや工夫する力を身につける。



サイト作り: 9日間使う屋根を作る



マウンテンバイク: 富士山を望みながら

具体的なプログラム名	主なポイント
マウンテンバイクと沢登り	マウンテンバイクで沢へ向かう。風を切る気持ちよさ、自分で操作して難所や上り坂を乗り越える楽しさがある。沢に着いたら沢の中を歩き、滝を登っていく。流れの強さやしぶきを体を感じることで、沢や森との一体感がある。
富士山麓林道と東海自然歩道ハイク	富士山を望む美しい景色や、一日を通した気温や天候の変化を感じながら総距離28kmを歩くハイキング。苦しいことを途中で投げ出さず、最後までやり遂げる経験になる。
野外炊事	野外調理は、薪から火を起こすという原生活体験であり、材料からいくつもの工程を経て料理が出来上がり、盛り付けて食べ、片付けるまでを経験し習得することができる。

参加者の安全対策・健康管理

<安全対策> 活動場所を下見する。出発前には道具を点検し、適切な扱い方を確認する。参加者には丁寧に注意事項を伝え、必要に応じて練習を行う。マウンテンバイクなどの移動中、ろう・難聴の児童は、後から声をかけることが難しいためスタッフを多く配置するなどの対策を講じる。

<健康管理> 参加者の既往症やアレルギー、普段の生活で注意していることなどを記した個票を作成する。キャンプにくる前の過ごし方にも気をつけてもらう。情報を漏れなく収集するために、ろう者のスタッフが付き添い健康状態チェックを毎晩実施する。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8/16	14:00	開村式・オリエンテーション
	14:30	サイト作り
	16:30	夕食作り・夕食
8/17	6:30	朝のつどい・朝食
	9:30~14:00	マウンテンバイク & シャワークライミング
	16:30	夕食作り・夕食
	19:30	歓迎のつどい
8/18	6:30	朝のつどい・朝食
	9:30~14:00	陣馬の滝ハイキング
	16:30	夕食作り・夕食
8/19	6:30	朝のつどい・朝食
	9:00~14:00	お好み活動(1) 草木染め・ピザ作り・沖繩そば作り
	16:30	夕食作り・夕食
	19:30	活動報告会

月/日	時間帯	プログラム内容
8/20	6:30	朝のつどい・朝食
	9:00~14:00	お好み活動(2) 沢登り・つるかご作など
	16:30	夕食作り・夕食
	19:30	家族への手紙
8/21	7:00	休養日開始：青空図書館・洗濯・自由活動
	14:00	ハイキング準備(パッキング)
	16:30	夕食作り・夕食
8/22	5:00	ハイキング出発準備
	7:45~17:00	ハイキング出発
	18:00	夕食(スタッフによる給食)
8/23	6:30	朝のつどい・朝食
	9:00	ふりかえりの時間
	15:00	料理博覧会：調理と会食
	19:00	さよなら思い出発表会
8/24	7:00	撤収
	11:30	閉村式

活動の成果と課題

生活体験や自然体験の機会が不足しがちなろう・難聴の子どもたちに、長期間の本格的な野外活動を安全に提供することができました。参加者は、工夫して自分で生活することの楽しさと大変さ、自然の美しさや厳しさを味わい、キャンプをやり遂げたことによって満足感や自信を感じたと思います。また彼らが、隣接のキャンプ参加者である健聴の子どもと接するにあたり、キャンプや自然のもつ包摂性(インクルーシブネス)が生かされ、自然に双方の交流や理解が深まったことは嬉しい発見でした。今後も、指導者の手話や野外活動のスキルを向上させるトレーニングを継続し、より安心して指導ができるようにし、プログラムの充実、年間を通した活動の提供などを目指します。



沢登り：しぶきの中を進む



おしゃべりも楽しみながら歩く

団体概要

<設立年月> 平成30年4月

<設立の経緯> 当団体は、この団体の前身である「デフキッズキャンプ」の9年間の活動を踏襲し、生活体験活動、自然体験活動の機会が少ないろう・難聴の児童に、より組織的かつ継続的に、専門的な活動を適切な配慮のもとに提供できるように団体として組織したものです。

<目的> ろう・難聴の子どもに、夏だけでなく、冬や初春などにスケートや雪上活動などを提供しています。また、障害のある者とない者が互いに触れる機会がないことによる理解不足を補い、子どもたちが安心して未来に進むことができるよう「インクルーシブ」な設定での活動や、普及活動として研究や講演なども実施しています。

<構成> 大学教員(野外教育専門2名、その他2名)、社会人(ろう5名・聴5名)、大学生(1~3年生、ろう4名・聴9名)。男女比は11:16、年齢層は50代2名、40代2名、30代1名、20代22名。

科学実験教室「土の教室—土のふしぎを解き明かし、SDGsを考えよう」

<実施団体> 特定非営利活動法人 けやの森自然塾

- 活動期間 令和4年7月25日(月)～7月29日(金)
日帰り5回
- 活動場所 狭山市立水富公民館
- 募集地域 狭山市
- 募集対象 小学生(4～6年生)
- 募集方法 チラシ(配布先:狭山市内小学校15か所)
広報誌(広報さやま)
当法人ウェブサイト
- 構成員数 13名

活動を通してのSDGsへの取り組み

日本人にとっては普段から特別気にするわけでもなく、あって当然の存在である「土」がどれほど豊かな生態系を支えているか、そこに気づかせることで、目標15「陸の豊かさを守ろう」および目標13「気候変動に具体的な対策を」に対する、今必要とされている行動や考えを学び、身に付けられるよう、プログラムを企画しました。

活動のねらいとポイント

土への関心・理解を高めるとともに、土を地球環境の視点で捉え、SDGsの課題解決の観点から取り組む。



実験内容の説明を聞いているところ



砂と土の水と養分の保持力を比較しているところ

具体的なプログラム名	主なポイント
自然観察(林・畑など)	野外での土の観察活動(原体験)を通して、「いろいろな土」を観察し、「土と生物多様性」などに関心を持たせる。
テーマ別観察・実験	観察・実験などの結果を考察し、まとめ(問題解決活動)、発表する。
問題解決活動	SDGsの視点で課題発見・解決に向けて取り組む。

参加者の安全対策・健康管理

- <安全対策> ・実験機器の取り扱いに関しては、事前に十分に説明し、危険な箇所は指導者・協力者が行う。
- <健康管理> ・毎回参加前日夕方と当日の朝に検温、体調確認を家庭でした上で、健康カード(体温、体調など)の提出を求める。
- ・適宜室内の換気を行う。
- ・気温が高い場合、屋外での作業は中止とし、室内で活動を行う。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/25	8:50~9:00	受付
	9:00~9:15	全体説明・諸注意、SDGsの解説
	9:15~9:40	観察(近隣の様々な土の観察)
	9:50~11:40	テーマ1「土の水とよう分の保持」観察・実験 砂と土の水とよう分の保持力を比較する。土と植物の成長(食糧生産)を考える。
	11:50~12:10	「土の水とよう分の保持」についてわかったこと、発見したこと・気づいたことの話し合い・発表
12:10~12:30	まとめ(問題解決活動)、土の砂漠化の広がり(解説)	
7/26	8:50~9:00	受付
	9:00~9:15	全体説明・諸注意
	9:15~11:40	テーマ2「土の呼吸」観察・実験 砂といろいろな土の呼吸(林土、畑土、校庭土など)を測定する。
	11:50~12:10	「土の呼吸」について発見したこと・気づいたことの話し合い・発表
	12:10~12:30	まとめ(問題解決活動)、土の呼吸による二酸化炭素の発生(解説)
7/27	8:50~9:00	受付
	9:00~9:15	全体説明・諸注意
	9:15~11:40	テーマ3「土の生きものの多様性」観察・実験 砂といろいろな土(林土、畑土、校庭土など)の中の生きものを抽出・観察し、比較する。
	11:50~12:10	「土の生きものの多様性」について発見したこと・気づいたことの話し合い・発表
	12:10~12:30	まとめ(問題解決活動)、土の生きものの多様性(解説)

月/日	時間帯	プログラム内容
7/28	8:50~9:00	受付
	9:00~9:15	全体説明・諸注意
	9:15~9:40	自然観察(林内外での土の呼吸測定)
	9:50~11:40	テーマ4「土の呼吸と地温」観察・実験 地温の違い(冷水、常温水、温水に一定時間土入りの試験管を浸す)による土の呼吸速度の変化を確認する。
	11:50~12:10	「土の呼吸と地温」について発見したこと・気づいたことの話し合い・発表
12:10~12:30	まとめ(問題解決活動)、土の呼吸と温暖化との関係(解説)	
7/29	8:50~9:00	受付
	9:00~9:15	全体説明・諸注意
	9:15~11:30	テーマ5「土の団粒とミミズ」観察・実験 団粒土と単粒土の水中振と後の水の濁り具合の比較、泡の発生の比較、ミミズの林土、畑土、校庭土の生息数比較。ミミズの体の構造を観察する。SDG'sの視点からミミズコンポストの活用を考える
	11:40~12:00	「土の団粒とミミズ」について発見したこと・気づいたことの話し合い・発表
	12:00~12:30	まとめ(問題解決活動)、団粒土と単粒土の生成、性質(解説)、「SDGsと土」(講演)

自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

活動の成果と課題

参加した子どもたちの土への関心は高く、観察・実験に積極的に取り組んでいました。また、土の保全に対する課題発見・解決に向けた発表や話し合いも行われていました。特に、温暖化に伴う土の呼吸の増加の疑似実験では、土の呼吸増加がさらなる温暖化につながることを理解したことから、温暖化の解決が急務であることが話し合われました。

土の生きものの多様性の有無(特にミミズ)が土の団粒・単粒化と関係していることから、その重要性を認識しました。そして、SDG'sの視点で地球の土を考えていくことが、食料生産や水の保持、地球生態系の改善などにつながることも気づき、早急な対応が必要なることを理解することができました。



◀ 土の中にある生物を採取しているところ

地温の違いによる土の呼吸速度の変化についての実験 ▶



職場体験

総合・その他
の体験

読書

団体概要

<https://keyanomorishizenjuku.com/>

<設立年月> 平成4年5月

<設立の経緯> 子どもたちの生きる力を育みたいとの願いをもって、平成4年に設立しました。

平成11年には埼玉県からNPO法人(特定非営利活動法人)の認可を得て、子どもを対象にさまざまな自然体験活動を通じた学習と交流を行ってきました。特に「川」に関わる活動では多くのマスコミに取り上げられ、高い評価を得ています。

<目的> 自然体験こそ豊かな人間育成に重要な役割を果たすものと考え、子どもたちの自然体験活動を実践しています。自然活動は危険や困難が伴うものです。しかし、私たちはすべての危険を子どもから遠ざけることはしません。安全を確保しながらも、子どもたちが力を合わせて困難を克服できる状況を作り出し、自分の責任で行動できる力を養います。

<構成> 理事長を含む役員7名、常勤スタッフ5名(20代2名、40代2名、50代1名)、ボランティアスタッフ数名、登録講師多数、会員およそ60家庭



教材

Let's アクション! みんなで作ろうコマ撮りアニメ

<実施団体> ツインクル・プラン

- 活動期間 令和4年7月16日(土)～11月3日(木)
日帰り2回
- 活動場所 ①7月16日: IYO 夢みらい館(伊予市文化交流センター)
②11月3日: 町立久万美術館
- 募集地域 松山市、伊予市、久万高原町ほか近郊
- 募集対象 未就学児(1～5歳)、小学生(1～6年生)、中学生、
保護者
- 募集方法 チラシ(配布先: 小学校、保育園、幼稚園、
公共施設など)
SNS…講師のホームページやInstagramなど
- 構成員数 3名



【伊予市/IYO 夢みらい館】実際にコマ撮りした映像を見ながら解説

活動を通してのSDGsへの取り組み

子どもたちがみんなで1つの作品づくりに取り組むことで、自分と他人との違いを知り、互いを認めあう土台をつくれます。アーティストである講師をはじめとする様々な人たちとの出会いは、これから多種多様な社会で生きていく子どもたちにとって大切なことであると考え、持続可能な開発目標(SDGs)16「平和と公正をすべての人に」に取り組んでいます。

活動のねらいとポイント

子どもたちが表現する楽しさを自ら見つけ出し、作品づくりを行う。自分と他者との存在を感じ、認めあえる豊かな心を育むことをねらいとする。



【伊予市/IYO 夢みらい館】舞台上でボートを動かしながら撮影

具体的なプログラム名	主なポイント
みんなでモチーフについて考えよう	場所や展示作品を見て、親子や参加者同士でイメージを膨らませて、どんなことを思うか話し合い、自分たちがどんなポーズで動くかを相談しながら考える。
アニメを撮影しよう	それぞれ参加者本人たちが少しずつ動いて出演し、子どもも大人も一緒に協力しながら1つの物語を作っていく。その様子を1コマずつ撮影する。
みんなで1つのアニメづくり	作品に音楽をつけるために、講師、親子、参加者みんなでアイデアを出す。視点や表現の違いを伝えあい、表現活動を通じて豊かな時間をわかちあう。

参加者の安全対策・健康管理

<安全対策> 事前に、施設の危険箇所や活動での注意点などを、施設職員、講師、スタッフで点検・確認をして、対策をとっておく。当日は、参加者が安全かつスムーズに活動できるようにサポートする。救急セットを準備して、保険に加入しておく。

<健康管理> 活動日が近くなった頃に、参加者へ直前の開催案内と注意事項、体調不良の場合は参加を控えるお願い(コロナ対策)などをメールにて送る。当日は、受付で手指消毒を行い、活動中は参加者の健康状態に気をくばりながら声かけを行う。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/16		■IYO 夢みらい館（伊予市文化交流センター）
	10:00～10:15	開始、プログラム説明・講師紹介 ・アニメの仕組みを説明、コマ撮り練習
	10:15～12:00	撮影ワークショップ ・スタジオやホールの面白い場所で撮影しよう
	12:00～13:00	お昼休憩
	13:00～13:30	音楽ワークショップ
	13:30～	上映会、おしゃべり会
	14:00	片付け・終了

月/日	時間帯	プログラム内容
11/3		■町立久万美術館
	10:00～10:15	開始、プログラム説明・講師紹介 ・アニメの仕組みを説明、コマ撮り練習
	10:15～12:00	撮影ワークショップ ・美術館の展示作品と一緒に撮影しよう
	12:00～13:00	お昼休憩
	13:00～13:30	音楽ワークショップ
	13:30～	上映会、おしゃべり会
	14:00	片付け・終了

活動の成果と課題

今年度は本プログラムで初めて舞台照明を入れたのホール撮影や、スタジオで大型の鏡を使ったシーンに挑戦しました。美術館では、新しい撮影のアプローチを行い、親子が選んだ絵画からイメージを膨らませ、工夫を凝らして動きを考え、子どもたちから笑いや驚きの声があがり、ユニークで多様な表現が生まれました。音楽ワークショップでは、好きな楽器を選び、思い思いに演奏することで、お互いの表現を認め合い、楽しめる豊かな交流の時間になりました。今後は、コロナ禍や体調不良などによる開催直前の参加人数減少があっても対応できる十分な広報・集客を工夫し、近年は新規の参加が多く、リピーターが少なくなっているため、両者が楽しめるようにブラッシュアップを考えたいです。



【久万高原町／町立久万美術館】展示作品のイメージをふくらませて撮影



【久万高原町／町立久万美術館】ロビーにて参加者全員の登場シーン

団体概要

＜設立年月＞ 平成 23 年 4 月

＜設立の経緯＞ 平成 23 年にミニシアターでのトークイベント企画運営や、地元演劇・ダンスカンパニーの公演サポートなど、地域で芸術文化活動を支えるために結成しました。JA えひめ中央主催の食の映画イベント、NPO との連携、8 ミリフィルムの世界的イベント「ホームムービーの日」愛媛会場の運営支援など、継続して行っています。

＜目的＞ 映画、舞台芸術、演劇、地域の伝統などの芸術・文化の振興に関する活動を行う団体や場所等を支え、芸術・文化に関する啓発、普及等の活動を行うことにより、愛媛県内とその周辺における芸術・文化活動の推進と創造性の向上に寄与することを目的とします。

＜構成＞ 代表ほか、2名の団体構成員を有する。職業（個人事業主・会社員・特別職地方公務員）、年齢（40代2名・50代1名）、男女比（男0：女3）

子どもがつくるまち「ミニいちかわ2022」

<実施団体> 特定非営利活動法人 市川子ども文化ステーション

- 活動期間 令和4年7月3日(日)～10月23日(日)
- 活動場所 市川市 行徳駅前公園
- 募集地域 市川市
- 募集対象 小学生(1～6年生)、中学生、高校生
- 募集方法 チラシ(配布先:市内小・中学校、公民館、図書館)
ポスター(掲示先:市内小・中学校、公民館、図書館、商店)
広報誌(地元新聞:行徳新聞に掲載)
会のホームページに掲載
- 構成員数 54名

活動を通してのSDGsへの取り組み

子どもたちがチャレンジできる場を作り、様々な力を獲得することを旨とするにより、持続可能な開発目標(SDGs)「質の高い教育をみんなに」「4」に取り組んでいます。まちの仕事として、本物の動物の革を使用した革細工と清掃&ゴミの分別を行いまちの景観を考え環境作りを行うことで、持続可能な開発目標(SDGs)「陸の豊かさを守ろう」「15」に取り組んでいます。

活動のねらいとポイント

あそびのまちを通して異年齢で交流する場を作り、自分で考え行動し、それに伴う責任をとる権利を保障することでコミュニケーション力と自己肯定感を育む。事前公募した子どもたちの発想でまちづくりを行った。



子どもスタッフ会議グループ発表。



「オープニングセレモニー」市長の合図でくす玉を割ってスタート！！

具体的なプログラム名	主なポイント
課題解決・あそびプログラム	子ども会議:まちのしくみ・安全・衛生・運営・スタッフの役割を考える講習。 当日参加者:市民登録を行い、仕事を選び働き、通貨を得て自分で考え自由に 使って遊ぶ。各ブースでは参加者が協力してまちを動かしていける工夫と材料 を準備する。トラブルや失敗は成長のチャンスと捉える。
子どもスタッフ会議・まちづくり・ コミュニケーションワーク	実現したいことに向けてアイデアを出し合い、まち全体をデザインする。議題 によりグループまたは全体で討議を行う。各自、ブースの企画を考え準備を行う。 思考や枠に囚われず、創造力を発揮し、自己表現すること・他者を認め協力し合 うことの楽しさと大切さを体感し、わくわくするまちにするためのワークを行う。
アイスブレイク	子どもスタッフがリラックスし自分らしく表現できるように、会議の前にコ ミュニケーションゲームや遊びを行う。

参加者の安全対策・健康管理

<安全対策> 会場の危険箇所のチェックを前日と当日に実施する。発電機の取り扱い責任者を置く。危険行為や不審者について定期的に担当者が見回るとともに、移動交番の派遣を依頼し安全対策を行う。ブース内において器材の消毒を定期的に行う。

<健康管理> 受付時に参加者の体調確認を行い、マスクを着用して活動を実施する。手洗い場を設置し、各ブースでは仕事の前後に手指の消毒を行う。水分補給や時々マスクを外すことの大切さを伝える等、団体構成員が各ブースで健康管理を行う。病院ブースに対応できるスタッフを配置し緊急時に備える。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/3	13:30~16:00	第1回子どもスタッフ会議：アイスブレイク、自己紹介、ミニいちかわの説明、グループ討議・発表（ミニいちかわで大切にしたいこと、こんなまちにしたい、スタッフの役割）
7/24	13:30~16:00	第2回子どもスタッフ会議：アイスブレイク、市長・副市長選挙、テーマ決め、希望ブースに分かれて話し合い（公共系・工房系・あそび系）
8/24	13:30~16:00	第3回子どもスタッフ会議：「まちづくり&コミュニケーションワーク」（講師あいさつ / ワーク：クリオントップゲーム、ブレインストーミング）、希望ブースに分かれて振り返り
9/11	13:30~16:00	第4回子どもスタッフ会議：アイスブレイク、まちのしくみについて、店長として大事なこと・新型コロナウイルス予防対策について確認、テーマに沿ったまちにするアイデアを考える
9/18	13:30~16:00	第5回子どもスタッフ会議：ミニいちかわ20周年に向けて、オープニング、エンディングについて、ブース届けの記入、ブースの準備
10/2	13:30~16:00	第6回子どもスタッフ会議：「子どもスタッフガイド」にそって、当日のシミュレーション、店長確認テスト、ブースの準備・作業、サポーターとの打合せ
10/9	13:30~16:00	第7回子どもスタッフ会議：当日のシミュレーション、ブースの準備・作業、サポーターとの打合せ、オープニング・エンディングの練習 解散

月/日	時間帯	プログラム内容
10/15	8:00	子どもスタッフ集合、ブース準備、ミーティング
	9:00	受付開始
	9:50	オープニング
	10:00	ミニいちかわ開始 ①職安で仕事を選ぶ ②働く ③銀行で給料(メティ)をもらう ④メティを使って遊ぶ。又は①へ 12:00~12:30 昼食タイム
	14:55	エンディング
15:00~16:00	終了・片付け 子どもスタッフミーティング	
10/16	8:00	子どもスタッフ集合、ブース準備、ミーティング 9:00 9:50
	9:00	受付開始
	9:50	オープニング
	10:00	ミニいちかわ開始 ①職安で仕事を選ぶ ②働く ③銀行で給料(メティ)をもらう ④メティを使って遊ぶ。又は①へ 12:00~12:30 昼食タイム
	14:55	エンディング
15:00~16:00	終了・片付け 子どもスタッフミーティング	
10/23	13:30~16:00	第8回子どもスタッフ会議：アンケートの記入、グループで振り返り・発表（頑張った事、楽しかった事、大変だった事など）、一人一言感想、市長・副市長挨拶。

自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

活動の成果と課題

子どもスタッフ会議では、まちづくりワークを行い、毎回、グループを変えて話し合いを行う等、工夫をしたことで、互いを知り、仲間になっていきました。振り返りアンケートには、ほとんどの子が「やりたかったことができた。大変だったけど楽しかった」と回答があり、また、参加者のアンケートには「自分のやりたいことができた、知らない人と話すのが楽しい、経験したことのないことができた、人の役に立てるのが嬉しい」という回答が多くあり、それぞれの子どもたちの居場所のひとつとなり、自己肯定感を育むことができたと思います。課題は、子どもスタッフとサポーターとの事前打合せを複数回行い、信頼関係を構築して、子どもたちが安心して当日を迎えられるようにすることです。

職場体験



「職安」で、公共系・工房系・あそび系の中から仕事を選ぶ。人気の仕事はどんどんなくなる。



「ヨーヨーすくい」ヨーヨーを作ってお客さんに釣ってもらおう仕事。お店は大繁盛。

総合・その他
の体験

読書

団体概要

<http://kodomobst.org>

＜設立年月＞ 昭和58年9月

＜設立の経緯＞ 子どもの成長にとって、自然、芸術、人との関わり合いから得られる生の体験や感動を重ねていくことが不可欠と考え任意団体として発足。平成13年4月に特定非営利活動法人を設立しました。

＜目的＞ 主に市川市の子どもに対して、自主的、創造的、そして文化的な体験活動を行い、豊かな人間性を育む地域社会づくりに寄与することを目的とします。

＜構成＞ 理事長以下理事及び事務局職員15名、監事3名、他正会員258名



教材

北上川清掃

<実施団体> 北上川フィールドライフクラブ

- 活動期間 令和4年4月10日(日)、11月13日(日)の2日
日帰り2回
- 活動場所 北上川花巻南大橋付近(〒025-0022 岩手県花巻市
十二丁目1232)
- 募集地域 花巻市周辺市町村
- 募集対象 小学生(1~6年生)、中学生、高校生、一般成人、
保護者
- 募集方法 チラシ(配布先:役所・観光所・学童・学習塾)
facebookのイベントページ
- 構成員数 8名



親子でゴミ拾いの様子

活動を通してのSDGsへの取り組み

北上川フィールドライフクラブでは子ども達が清掃活動を通じて、ゴミが河川に流れる事で環境・人体に与える影響や、限りある地球の資源を守るためリサイクル・リユースを生活の中で意識してもらうため、持続可能な開発目標(SDGs)14[海の豊かさを守ろう]、11[住み続けられるまちづくりを]、12[つくる責任つかう責任]に取り組んでいます。



カヌーによるゴミ拾いの様子

活動のねらいとポイント

水辺の清掃活動を通じ、川の存在と環境の豊かさ、自然の不思議や美しさに惹かれ、親しむ心と探求心を育む。また広域化する自然災害を意識させる。



一日で集まったゴミ

具体的なプログラム名	主なポイント
河原のゴミと自然災害について	ゴミ拾いをしながら、落ちているゴミの種類や大きさ、場所に着眼し、自然災害(台風や大雨など)による関連性を学ぶ。
河川敷に生息する動物・水生生物調査	河川敷に生息する生物の実態と、ゴミによる影響、近年多発する自然災害による影響について考察する。
ゴミの分別作業・観察	土に返らないプラスチックゴミが多いことに着目してもらい、人為的でなくても風で飛んでしまったら自然には返らない事を知る。

参加者の安全対策・健康管理

<安全対策> 子供が単独で行動することが無いように親子で活動させる。リバーマスター中級者が危険箇所を指導し、活動中は巡回し問題が無いかが把握に努める。水辺の活動ではライフジャケット着用を義務とする。緊急時の連絡網として消防、警察、病院との連携も取る。

<健康管理> 救急救命士・AED講師養成者・リバーマスター中級者が、健康状態を確認し、指導者とともに健康観察を行う。またコロナウィルス感染予防のため、参加者のマスク着用、受付時に検温、名簿への記入を義務とした。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
4/10	8:30	受付
	9:00	【開会式】 ・活動目的の説明 ・国土交通省、地域土地改良区等の関係団体より近況報告 ・安全確認・健康確認（コロナウィルス対策）
	10:00	【清掃活動開始】 ・参加者に「社会奉仕体験活動」の機会を設けるため、下記テーマ別に有識者よりディスカッションを行い、生活に身近な川について知り、環境保全活動の大切さを学ばせる。 ・テーマは下記の3つ 『河原のゴミと自然災害について』 『河川敷に生息する動物・水生生物調査』 『自生植物の観察』
	12:00	昼食（とん汁、河川敷に自生する食材料理の振る舞い）
	13:00	集めたゴミを観察し、下記プログラムを開催 『ゴミの分別作業・観察会』 『討論会』
	14:00	子どもたちを中心とした散策、遊覧体験
	15:00	閉会式
11/13 も同内容		

自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

職場体験

総合・その他
の体験

読書

教材

活動の成果と課題

2022年は河川氾濫があり陸地へのゴミが大量に流れ、例年よりゴミが多かったため、たくさんの参加者に地域環境の保存に意識を持ってもらう事ができました。また、環境美化の大切さを学んでいただきました。討論会では流れてくるゴミや水辺に捨てられるゴミの種類を知ってもらい、なぜ流れてくるのか、なぜ捨てる人がいるのか伝える事ができました。また清掃活動後の遊覧体験では河川敷での楽しさや素晴らしさ、怖さ等を知ってもらい、危機管理能力を常に持つ意識を共有する事ができました。長年開催してきた成果もあり毎回 100～130 人の参加がありますが、今後は市民全体で意識してもらえる活動に展開していきたいと考えています。



河川敷に生息する生き物調査の様子



お昼休憩・とん汁の振る舞いの様子

団体概要

<http://www.hanamaki-sportsland.jp/>

＜設立年月＞ 平成4年6月

＜設立の経緯＞ 幼い頃から北上川の自然に親しんできた代表の白畑が、消防署員として勤務する中、「子どもの水難事故を何とか防ぎたい」という思いから団体を設立しました。現在は教本「川の楽校（がっこう）」を発行し安全指導を行っています。

＜目的＞ 北上川を活用したラフティング体験では全国各地のお客様に体験いただき、学習旅行の受け入れも行っていきます。また河川敷を利用した水辺体験、川流れ体験、カヌー、3輪・4輪バギー、冬にはスノーモービルや親子雪上体験（そり、雪上カヌー等）を行っています。

＜構成＞ ・元消防職員（60～70代）：男性2名 ・現役消防職員（20～30代）：男性2名
・元海上自衛隊員（60代）：男性1名 ・母子支援団体代表（60代）：女性1名
・花巻市環境マイスター（40代、50代）：男性2名



こども工務店

<実施団体> こども工務店富山実行委員会

- 活動期間 令和4年10月10日（月祝）
日帰り1回
- 活動場所 まちなか賑わい広場「グランドプラザ」
- 募集地域 富山県富山市、立山町、上市町、舟橋村
- 募集対象 小学生（1～6年生）
- 募集方法 チラシ（配布先：募集地域の小学校全生徒に配布）
- 構成員数 81名

活動を通してのSDGsへの取り組み

学校では学べない、本物のノコギリなどの工具や機械を使った職人体験を通じて、モノづくりの楽しさを知ることによって就業等の視野を広げる一助となることを目的とし、普段経験できない質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する開発目標4「教育」と、働きがいのある人間らしい雇用を促進する開発目標8「経済成長と雇用」に取り組んでいます。

活動のねらいとポイント

本物の建築職人とのモノ作り体験を通じて、創造する楽しさを知り、将来の進路について可能性が広がる機会となるよう実施。



こども上棟式では大工さんと協力して木造建築物を組み立てる



基礎屋さんブースでオペレーターと一緒に重機操作を体験

具体的なプログラム名	主なポイント
こども上棟式	家のミニチュア版（高さ150cm程度）の木造構造部材（土台や柱など）を大工さんと一緒に組み立てて上棟する。参加者全員で協力して小屋を作ることで、自分たちが住んでいる家が図面からどうやって作られているのかを学ぶ。
大工さん体験	大工さんが使っている本物の道具を自分で選んで、ノコギリ、カンナ掛け、釘打ち、釘抜きを大工さんからアドバイスをもらいながら、自分の力で作業させる。
基礎屋さん体験	本物の建設作業車（パワーショベル）をプロのオペレーターと一緒に操作し、荷物を移動する。乗車して記念撮影するコーナーも設け、より記憶に残る体験としている。

参加者の安全対策・健康管理

- <安全対策> 参加者は軍手を持参することとする。作業を開始する前に、大工道具などについて説明し、安全な正しい使い方をしっかりと指導する。作業中は、子供一人に対してスタッフが1～2名付き、目を離さないようにする。
- <健康管理> 受付時に参加者の健康状態を確認する。会場内で熱中症などの体調不良があった場合に備え、救護係（看護師）を待機させる。スタッフも常時身体を動かしているため、熱中症対策の為、スポーツドリンクと塩分補給タブレットを提供する。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
10/10	8:00~9:00	会場設営
	9:15~9:25	スタッフミーティング
	9:30~12:00	午前の部 総合受付（常時受付）、参加証を兼ねた「こども一級建築士免許証」配布。
	13:00~15:30	午後の部 総合受付（常時受付）、同上。
	10:00~16:00	建築職人体験（昼休憩 12:30~13:30） 〈体験内容〉 1. こども上棟式…片流れ屋根の小屋を大工と参加者で力を合わせて組み立てる。 体験時間 40分、1回目 10:00~ 2回目 11:20~ 3回目 13:30~ 4回目 14:50~ 2. 大工さん…①のこぎりで角材切り（大工さんが仕事で使っているノコギリを使って、90cm角の角材を自分の力で切る。 イベントロゴ焼き印を入れて、コースターとする。） ②カンナ削り（大工さんが仕事で使っているカンナを使って、ヒノキ材を削る。） ③釘打ち・釘抜き（大工さんが仕事で使っている金づちと釘抜きを使って、大小2本の釘を打って、それを抜く。） 体験時間各 4~6分 3. 基礎屋さん…本物のパワーショベルをプロのオペレーターと一緒に操作して、荷物を移動する作業を行う。撮影コーナーも設置。 体験時間各 3~4分 4. 塗装屋さん…ベニヤ板に黒板塗料を塗ってチョークボードを作る。 体験時間各 2~3分 5. 建具屋さん…組子障子の材料を組み合わせて、コースターを作る。 体験時間各 4~5分 6. 造園屋さん…土と苔、苗木を使って苔玉を作る。 体験時間各 10~11分

自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

活動の成果と課題

参加者 400 名で盛況でした。密を避けるため、体験ブースを 8 から 5 ブースに削減したが、住宅建築には多くの職人が関わることを知ってもらえたと思います。モノづくりの楽しさを伝えるイベントのねらいに対しては、会場の書き置きには「来年も来たい」「大工さんになる」等の声が集まり、参加者アンケートの回答には「スタッフのみなさんが、本当に優しく親切で、子どもたちを慈しむ気持ちが見て取れて、親としても大変楽しめました」など 110 名から応援メッセージをいただきました。しかし、時間が足りなくて、すべての体験ブースを回れない参加者が多かったことから、今後の課題は、入場者数や体験ブース数、体験時間などのバランスを最適化することです。



造園屋さんブースで苔玉づくり



大工さんブースでノコギリを使って自分の力で角材切り



こども上棟式の最後は自分たちで建てた屋根に上って記念撮影

職場体験

総合・その他
の体験

読書

団体概要

<https://kodomo-koumuten.com/>

＜設立年月＞ 平成 29 年 6 月

＜設立の経緯＞ 当団体は、地元富山で家づくりをしている工務店と建築設計事務所 3 社によって組織されており、1 年に 1 回開催する「建築職人体験イベント『こども工務店』」を企画・実施するために設立しました。

＜目的＞ わたくしたち建築事業者が、住宅生産を支えている建築職人さんの人柄や技を子供たちに知ってもらう活動を行うことにより、モノづくりの楽しさや喜びを感じてもらい、子供たちの未来の可能性や選択肢の創出を図るとともに、建築技術者の社会的地位を向上させることを目的としています。

＜構成＞ 幹事 5 名（うち委員長 1 名）、委員 16 名



教材

山・川・海をつなぐ漁業体験と食育体験

<実施団体> 社会福祉法人 大和育成園

- 活動期間 令和4年9月3日(土)～11月20日(日)
日帰り1回、宿泊1回(1泊2日)
- 活動場所 9/3 奈良県吉野郡天川村 11/19～20 三重県鳥羽市
- 募集地域 大和育成園入所児童
- 募集対象 小学生(1～6年生)、中学生、高校生、一般成人
- 募集方法 児童養護施設大和育成園入所児童対象
- 構成員数 5名

活動を通してのSDGsへの取り組み

漁業体験を通じて山・川・海の自然の恵みが繋がり、自分たちの暮らしが自然に支えられていることを体験し、その中で、自然の生態系を学び、自分たちが捕まえた魚などの生き物を扱い・調理し、命の尊さを考える食育についての理解を深めることで、持続可能な開発目標(SDGs)14[海の豊かさを守ろう]に取り組んでいます。

活動のねらいとポイント

入所児童に対して、養殖業体験・釣り体験・調理体験や水族館などのセミナー・見学など自然の大切さ・尊さなどを学ばせる。



アマゴ掴み体験では苦戦していましたがみんなで協力して魚を追い込み捕まえました。



エコミュージアム見学では映像・展示など分かりやすく楽しく学習できました。

具体的なプログラム名	主なポイント
水の生き物学習	水の生き物・環境について学ぶため、川・海辺の調査・水族館などの見学・セミナーなどで学習する。
漁業体験	川・海での養殖施設体験など実際に漁業の仕事を体験し、漁業の仕組みや取り組みを学び、児童の職業選択を広げる。
食育体験	漁業体験で捕まえた魚などの調理を体験し、いのちの尊さ・大切さなど学び食育学習の理解を深める。

参加者の安全対策・健康管理

- <安全対策>
 - ・事前に作業内容を漁業体験関係者などと打ち合わせをする。現地の下見を行い危険箇所を確認する。
 - ・危険が伴う作業については熟練したスタッフの指導を受ける。
 - ・作業に応じて、軍手や長靴・長袖・ライフジャケットなど着用する。
- <健康管理>
 - ・体験前や終了後に手洗い・うがい消毒をさせる。マスク着用・検温などの体調管理・水分補給も十分に行う。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
9/3	9:00	園発 荷物確認
	11:00	天川村あまご養殖説明・魚つかみどり体験
	12:00	昼食
	14:00	天川村エコミュージアム見学
	15:00	川の生き物観察
	17:00	調理体験 川魚など調理
	19:00	一日振り返り
11/19	8:00	体調確認 園発
	11:00	養殖業体験・海釣り体験 鯛など養殖業説明 海釣り体験説明
	12:00	調理体験 自分が釣った魚を炭火で焼き調理する
	14:00	海の博物館見学 貝殻などを使用したキャンドル・ストラップ作り体験
	16:00	宿舎着 荷物整理 入浴
	18:00	夕食
	19:00	鳥羽水族館教養セミナー
	20:00	海辺散策
	21:00	一日振り返り 消灯
	11/20	7:00
9:00		宿舎発
10:00		鳥羽水族館見学 グループ行動昼食
13:00		鳥羽水族館発～15時 休憩～
18:00		夕食
19:00		帰園 一日振り返り

活動の成果と課題

8/7山・川体験ではあまご養殖説明やあまごを自分の手で捕まえて自然と触れ合うことが出来ました。エコミュージアムの見学では分かりやすく展示され楽しく学習できました。調理体験では川魚を調理し自然の恵みの学びとなりました。

11/19～20では、鯛などの養殖業の説明や釣り体験を行い、みんなで協力して釣りや調理をすることが出来ました。鳥羽水族館職員による教養セミナーでは映像などで分かりやすく説明され、水族館の仕事に興味がある児童も質疑応答ができ貴重な時間となり、水族館の見学にも有意義な時間となりました。今後は、体験学習で学んだことを活かして、自然・生き物の大切さ・尊さなどを日常生活場面から意識・行動出来るように繋げていきたいと思います。



命の恵みに感謝しながら、自分で釣った鯛の味はやはり格別でした。



大きな鯛だったので釣り上げるのが大変でしたがみんなに手伝ってもらい達成感が味わえました。

団体概要

yamato-ikuseien.or.jp

<設立年月> 明治39年

<設立の経緯> 明治39年菅谷音五郎が「大和育児院」設立 昭和23年児童福祉法による養護施設認可 昭和28年社会福祉法人を設立「大和育成園」と改称

<目的> 児童養護施設入所児童に対して、安心・安全・共感できる空間をつくり、生活・学習などの養育、家庭環境調整などを行い、児童の心身の健やかな成長と自立を支援することを目的とする。

<構成> 園長 書記 児童指導員 保育士 管理栄養士(調理関係職員)



自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

職場体験

総合・その他の体験

読書

教材

絵本専門士のたのしいおはなし会

<実施団体> NPO 法人 絵本文化推進協会

- 活動期間 令和4年6月11日(土)～令和5年3月4日(土)
日帰り10回
- 活動場所 絵本カフェ Mebae ふたば書房御池ゼスト店
- 募集地域 京都府および関西地区
- 募集対象 未就学児(1～5歳)、小学生(1～6年生)、一般成人、保護者
- 募集方法 チラシ(配布先:書店店頭および近隣の保育園・幼稚園)
ポスター(掲示先:ふたば書房各店舗)
NPO 法人絵本文化推進協会ホームページ
- 構成員数 24名

活動を通してのSDGsへの取り組み

絵本の世界の中では、「海の豊かさ(目標14)」や「陸の豊かさ(目標15)」だけでなく、「ジェンダー(目標5)」や「人や国の不平等(目標10)」「平和と公正(目標16)」さえも体験することができます。そして喜怒哀楽を感じ子どもたちの心の成長を育みます。子どもたちが初めて出会う絵本を通して「質の高い教育(目標4)」を目指していきます。

活動のねらいとポイント

親子で、絵本のもつ素晴らしい世界を体験することができ、明るく豊かな心を育む。



おはなし会の風景



お膝で読み聞かせも!

具体的なプログラム名	主なポイント
絵本専門士のたのしいおはなし会	季節や行事に合わせてテーマを決めて、絵本の読み聞かせをすることで、子どもたちに飽きさせることなく、絵本の面白さや世界の広がりを感じさせる。

参加者の安全対策・健康管理

<安全対策> 屋内の活動であるが、子どもが動き回ってテーブルや椅子にぶつかったり、マットや敷物に足をとられないように、設営時に配慮し、活動時にはスタッフが常に子どもの同行に注意し事故が起こらないよう気を付ける。

<健康管理> 書店内やホールでの活動なので、除菌に努め、室内換気を行って、参加人数を制限して、ソーシャルディスタンスをしっかりととり、感染予防を万全にし、健康管理に気を付ける。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6/11	15:00~15:40	テーマ 雨ふりの絵本
7/23	11:30~12:15	テーマ 夏の絵本
8/14	11:00~11:45	テーマ 海の絵本
9/3	15:00~15:40	テーマ 食べ物の絵本
10/1	15:00~15:40	テーマ ハロウィンの絵本

月/日	時間帯	プログラム内容
11/5	15:00~15:40	テーマ 秋の絵本
12/3	15:00~15:40	テーマ クリスマスの絵本
1/7	15:00~15:40	テーマ 冬の絵本 (お正月)
2/4	15:00~15:40	テーマ 雪の絵本
3/4	15:00~15:40	テーマ 春の絵本 (入園・入学)

活動の成果と課題

子どもたちが生まれて初めて出会う本が絵本です。絵本専門士が、それぞれの季節や行事に合わせてテーマを決めて、絵本の読み聞かせをすることで、子どもたちの初めての絵本との出会いを大切に、絵本の世界のワクワクやドキドキ、親子で読む絵本のたのしさを体験してもらい、絵本好きの子どもを育てています。たくさんの絵本を紹介し、その面白さや絵本の世界の広がりを感じることができます。多くの絵本専門士にご協力いただきスタートした「絵本専門士のたのしいおはなし会」ですが、実施時間や告知方法などを模索し、何度か変更もありましたが現在のやり方に定着し、リピーターも増えていますので、令和5年度も継続して行っています。



クリスマスにはサンタクロースが！



絵本専門士の読み聞かせ

団体概要

<https://ehon-bunka.org>

<設立年月> 平成29年7月

<設立の経緯> 国立青少年教育振興機構と文字・活字文化推進機構と連携し、絵本専門士、朗読指導者の活躍の場を創造し、絵本文化に貢献します。

<目的> 絵本や読書にかかわる企業および自治体、民間諸団体、個人と連携し、絵本文化と朗読活動の推進及びその基盤強化を図ることを目的とします。

<構成> 役員：顧問1名・会長1名・理事20名・監事1名

登録絵本専門士：240名

登録朗読指導者：80名



自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

職場体験

総合・その他
の体験

読書

教材

発掘って遺跡だけじゃない！ コモンジョ（古文書）を 発掘して「昔」から自分のことを発見してみよう

<実施団体> 武蔵野大学 古文書研究室

■教材の入手先 <https://dig.mu-komonjo.com>

教材利用のポイント

身近な所から古文書めいた物を見つける（発掘する）体験、地域の図書館や郷土資料館・歴史博物館の活用体験、フィールドに出て行って「昔」から自分にまつわることの発見や地域・郷土を調べる地域社会体験を展開する教材です。

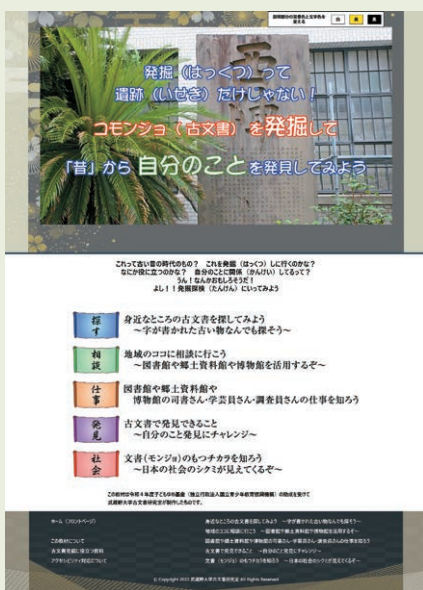
教材の概要

本教材は、子ども達が身近な所から古文書かもしれない物を見つけることから活動を始めます。古い手紙や葉書、難しい文字だらけで読めない物、何が書いてあるかわからない物、古文書かどうかわからないものでも、見つけたら近くの図書館や郷土資料館や博物館を活用して手がかりを得て、地域の中に飛び出して昔の痕跡の中に自分のルーツや歴史発見、過去との対話、先祖とのつながりをフィールドワークする教材です。小学校低学年から中・高校生まで幅広い利用が見込めます。従来の郷土学習や地域歴史体験が石碑をはじめ既に設定されている物から体験するのに対し、自分や親戚の家の中から見つけだすことから始めて資料と思っていないものを活用することで、活動の場が広がり、地域を越えた広域性が生まれます。

また、令和3年度に開発した、古文書にまつわる多様な体験活動へ誘う教材「ボクたちワタシたちも楽しめるコモンジョ（古文書）の世界」を活用した体験活動を実施することで、教材の普及にも努めています。

活動を通してのSDGsへの取り組み

古文書といえば「紙」を思い浮かびますが、古来から何度も再生して使用されており、平安時代以降の天皇の文章にも宿紙（しゅくし）と言われる再生紙が用いられています。武蔵野大学古文書研究室では、このような当時から持続可能な消費と再生がなされていた日本の歴史や文化を伝えることや体験の機会を提供することで、SDGsも目標12「持続可能な消費と生産」に取り組んでいます。



▼ホームページトップ画面



▲「相談の仕方」

地域の博物館等への相談の仕方を実際の動画を豊富に駆使して伝授

フィールドワークチャレンジの仕方を具体的な豊富な事例を通して提示。子どもたちがフットワークよく地域の中へ飛び出して行くアクションをプッシュします。

司書さん・学芸員さんと一緒に調べられること



▲ 学芸員さんと一緒に調べられることはこんなにある！

フィールドワークのやりかた



子ども向け教材開発・普及活動への申請をお考えの方へ

子どもゆめ基金で何ができるの？

- ・開発したいアプリや Web ページを作成して、広く社会に提供することができます。企画立案は応募団体で行っていただけますが、実際のプログラミング等は外部に委託することもできます。
- ・開発した教材を普及するための費用も、助成期間中は利用することができます。助成期間が終了した後は、応募団体の責任で行っていただきます。

注意すべきポイント

- 開発する教材に使う素材の著作権、教材の中で扱われる写真と関連する権利、さらに、子供たちの個人情報の扱いに留意が必要です。下記の例を参考にしてください。
- ・素材の提供者（原著者）には、譲渡できない著作権者人格権があります。作成した教材を今後、団体の判断で修正するためには、その著作権者人格権を行使しないという契約をしておく必要があります。
 - ・教材の中に写真がある場合、そこに写っている人の許諾を得ておく必要があります（肖像権等）。
 - ・自由に投稿できるようなページでは、子供たちがいろいろな個人情報を書き込んでしまう可能性があります。第三者に悪用されない仕組みが必要です。

過去に開発された教材は下記 URL よりご覧になれます。
https://yumekikin.niye.go.jp/jyosei_syoukai/kyouzai.html



申請の主な流れ

ID 申請

- ・電子申請システムを初めて利用される場合は、事前に ID の申請・発行手続きが必要です。子どもゆめ基金ホームページから電子申請システムに入り、ID 申請を行ってください。
- ・ID の発行は自動ではなく、職員が手作業で行っているため、土日祝日は発行できません。
- ・ID 申請の集中が予想される締切り間近は ID の発行に時間がかかりますので、余裕をもって申請してください。

電子申請 (企画書)

- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。
- ・**応募締切：令和 5 年 11 月 2 日（木）17 時締切**

一次審査

- ・審査委員会による一次審査（書面審査）を行い、一次採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【令和 5 年 12 月中（予定）】に通知します。

電子申請 (申請書)

- ・**※一次審査で採択された場合のみ**
- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。

二次審査

- ・審査委員会による**二次審査（申請書による書面審査及びプレゼンテーション審査）**を行い、採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【令和 6 年 4 月上旬（予定）】に通知します。

交付決定

- ・採否結果をメールにてお知らせします（郵送による通知は行いません）。交付決定通知書または不採択通知書は、電子申請システムにて確認・ダウンロードしてください。
- ・申請額に対して決定額が減額となっている場合や交付条件が附されている場合がありますので、交付決定通知書の内容をよくご確認ください。

自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

職場体験

総合・その他
の体験

読書

教材

日中韓子ども童話交流事業

日本・中国・韓国の子供たちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知るとともに、一緒に語り合い、協力して創作絵本を作成することで、3カ国の文化の特徴や共通性、違いなどを知り、相互に友情を深めあうことを趣旨としています。本事業は毎年度テーマを設定し、令和元年度は「園」をテーマに活動を行いました。なお、本事業は平成14年から実施され、平成23年からは3カ国による巡回開催により実施しています（令和2～4年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い延期。令和5年度に再開予定）。

- 事業期間 / 例年8月17日～23日（6泊7日）
- 実施場所 / 日本、中国、韓国（3カ国による巡回開催）※令和元年度は中国・北京市、河北省承德市にて開催
- 参加者 / 小学生4～6年生100名（各国33名、開催国34名）
過年度参加経験者 各国5～10名程度
- 主催 / 【日本】日中韓子ども童話交流事業実行委員会（子どもの未来を考える議員連盟、独立行政法人国立青少年教育振興機構）、【中国】中国関心下一代工作委员会、【韓国】ソウル教育大学
- 後援 / 中華人民共和国駐日本国大使館、駐日本国大韓民国大使館、文部科学省、外務省、国立国会図書館国際子ども図書館、公益財団法人文字・活字文化推進機構、公益社団法人全国学校図書館協議会
- プログラム / 世界に1つだけの創作絵本作り、絵本読み聞かせ、見学、共同宿泊体験、絵本の発表会等

【令和元年度の事業の様子】



万里の長城見学



テーマ「園」に沿った絵本を作成

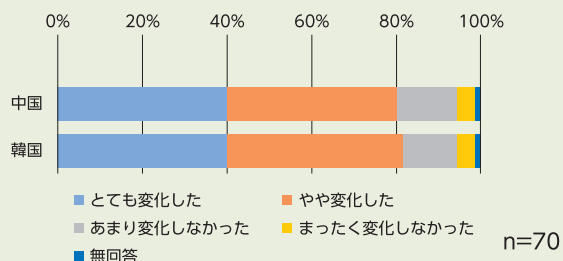
参加者の声

- ・私は「別れは、次のもっと素晴らしい再会のためにある！」とかたく信じています。10年後、私たちは参加経験者としてまた会いましょう！（中国の参加者）
- ・私は子ども童話交流に行ってから、分かったことがたくさんあります。一人ではできなかった事を友達と一緒にすると、楽しくて、簡単にやりとげることができるという事と「童話交流」は競争ではなく協同であるという事です。（韓国の参加者）
- ・中国での出会いは、ぼくの世界をぐんと広げてくれた。ぼくたちは、言葉や文化がちがうし、考え方もそれぞれだけど、ちゃんと分かり合うことができた。（日本の参加者）

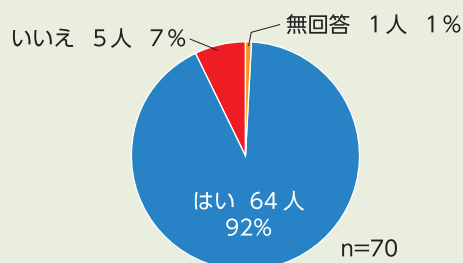
事業参加後の変化

※平成23年～29年（26年を除く）の参加経験者（198人）のうち、12～21歳の70人が回答。

当事業参加前／後で中国・韓国に対する印象やイメージに変化はありましたか



この交流を機に国際交流に興味を持ちましたか



ミクロネシア諸島自然体験交流事業

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的として、平成14年度より実施しています（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止、令和3及び4年度はオンラインでの交流を実施）。

- 事業期間 / 受入：毎年6月下旬の約10日間
派遣：毎年7月下旬～8月下旬の約11日間
- 実施場所 / 受入：東京都ほか※令和元年度は長野県・島根県・広島県にて開催
派遣：マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦（チューク州・ポンペイ州・コスラエ州のうち2州）・パラオ共和国
- 参加者 / 受入：10歳～14歳マーシャル諸島共和国：24名、ミクロネシア連邦：48名、パラオ共和国：12名（累計：1,183名）
派遣：小学校5年生～中学校2年生64名（累計：1,867名）
- 主催 / 独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 後援 / 外務省・文部科学省・マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦・パラオ共和国
- プログラム / 受入：スポーツ交流、上野動物園見学、都内中学校訪問、国会議事堂見学、各国大使館訪問、地方施設での交流プログラム等
派遣：自然体験、無人島体験、スポーツ交流、マリンアクティビティ、ホームステイ、合同学習成果発表会等

【令和元年度の受入の様子】



国会議事堂見学

【令和元年度の派遣の様子】



無人島体験

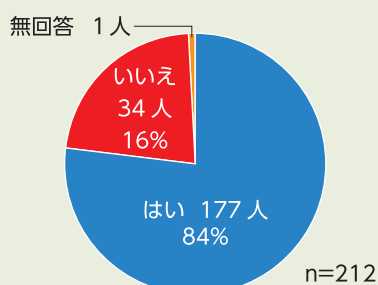
参加者の声

- ・現地の人たちとともに行動をすることにより、いつもの自分だったらできないようなことに取り組むことができました。また、人種などというものはなく、人間としてかわりあい、改めて人の温かさというのが分かりました。
- ・私はこの事業に参加して、「ミクロネシア諸島の良さ」を知りました。現地の方々は優しくフレンドリーな方が多かったですし、自然に恵まれていてとても良いなと思いました。
- ・日本と環境が違うので驚くことが多かったけど、水や食料の大切さを感じることができました。

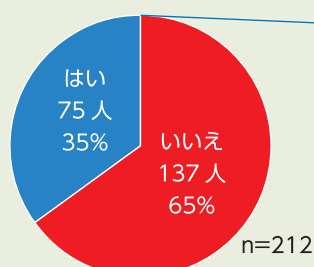
事業参加後の変化

※平成23年～29年の参加経験者(380人)のうち、13～23歳の212人が回答。

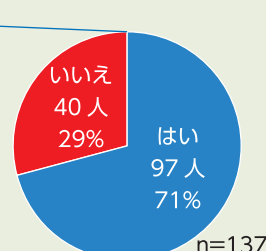
外国語の学習に力を入れるようになったか



海外留学をしたことがあるか
または、する予定があるか



今後留学してみたいと思うか



体験活動の重要性～私たち大人にできることは？～

子どもの成長を支える20の体験

国立青少年教育振興機構では、過去に実施した調査の結果等をもとに、「子どもの成長を支える20の体験」と「体験を通じて育成したい12の資質・能力」を取りまとめました。体験活動プログラムの目標や内容を検討する際の目安としてご活用ください。

体験を通じて育成したい12の資質・能力



子どもの成長を支える20の体験

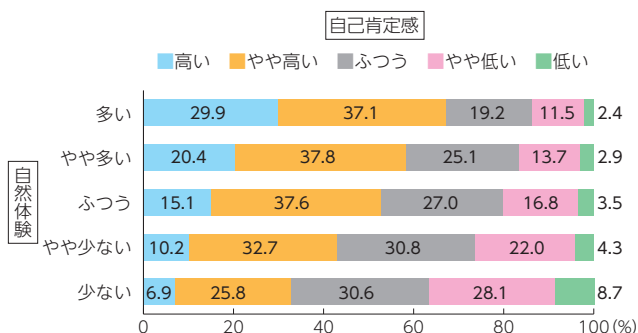
体験活動	自然体験、集団活動、地域行事、社会貢献、職業体験 文化芸術体験、科学体験、国際交流体験
生活習慣	規則正しい生活、お手伝い、遊び、運動・スポーツ、読書 探究学習、動植物とのふれあい、家族行事
人とのかかわり	家族とのかかわり、友達とのかかわり、先生とのかかわり 地域の人とのかかわり

体験活動により養われる子どもたちのチカラ～機構の調査結果から分かること①～

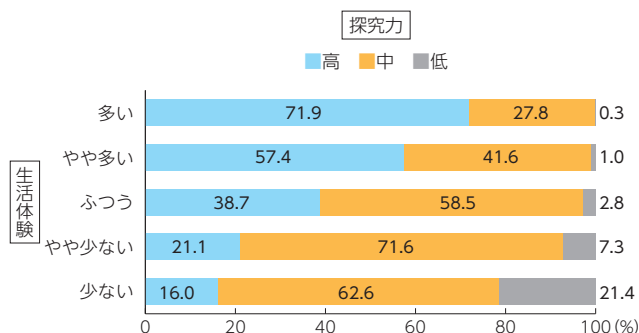
当機構では、青少年の自然体験や生活体験等の実施状況や日々の生活習慣の実態、自立に関する意識等について、全国規模の調査を実施しています。最新の調査から、下記のような調査結果が得られました。

【主な調査結果】

自然体験や生活体験、文化芸術体験が豊富な子ども、お手伝いを多く行っている子どもは、自己肯定感が高く、自立的行動習慣や探究力が身についている傾向があることがわかりました。



自然体験と自己肯定感の関係(小4～小6、中2、高2)



生活体験と探究力の関係(小4～小6、中2、高2)

「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元年度調査) 報告書より(令和3年3月発行)

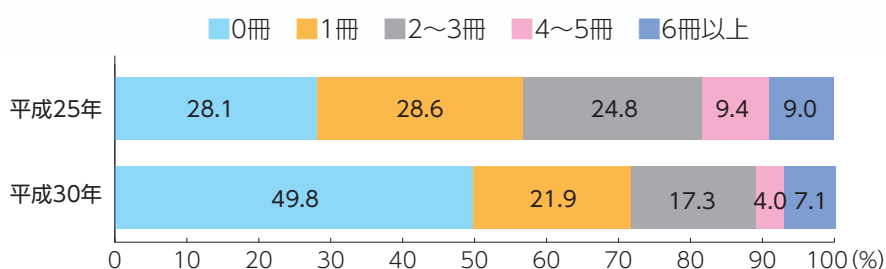
読書活動により養われる子どもたちのチカラ～機構の調査結果から分かること②～

また、平成30年には、成人（20代～60代）の読書活動の実態や現在の意識・能力、さらには子ども（小学校から高校）の読書活動の実態等に関する調査を行いました。

【主な調査結果】

平成25年に比べて平成30年の調査では、本（紙媒体）を読まない人が増えています。読書している人はしていない人よりも意識・能力（非認知能力）が高い傾向にあります。

読書ツールに注目すると、紙媒体で読書している人の意識・能力（非認知能力）が最も高い傾向にあります。



1ヶ月に読む本（紙媒体）の量の経年比較

「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究」報告書より（令和3年3月発行）

みなさまの活動を後押しする情報を発信しています！



青少年教育研究センターでは、青少年の意識や体験活動に関する全国調査など、青少年の成長や自立に関わる様々な調査研究を行っています。

Facebook ページや YouTube チャンネルでの発信も行っていますので、是非ご覧ください。

「子どもの成長を支える20の体験」
リーフレットはこちら



機構 HP 内
「調査研究」
ページはこちら



「体験の風をおこそう」運動[®]とは

近年、社会が豊かで便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少してきている状況を踏まえ、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であることを広く発信し、社会全体で体験活動を推進していくことを目的とした運動です。

「体験の風をおこそう推進事業」に参加しませんか。

体験の風をおこそう推進事業

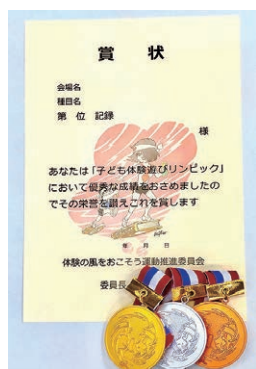
体験の風をおこそう運動推進委員会（事務局：国立青少年教育振興機構）では、全国各地で子供たちやその家族と一緒に体験できる機会と場の拡充及びその社会的気運の醸成に努めています。

そこで、全国の青少年団体等に呼びかけ、「体験の風をおこそう」運動に賛同して実施していただける事業を募集しています。登録は、「体験の風」HP (<https://taikennokaze.jp/download>) より、要項をご確認の上、HP内の専用webフォームからご登録いただくか、登録申込書に必要事項をご記入した後、登録先メール (taikennokaze-suishin@niye.go.jp) またはFAX (03-6407-7699) にてご提出ください。令和4年度は794団体に参加いただき、1,755事業の登録がありました。是非、ご登録ください。

子ども体験遊びリンピック

体験の風をおこそう推進事業のうち、特に競技性のある体験活動を幼児、小学生、中学生、親子等を対象に実施する事業を「子ども体験遊びリンピック」として併せて実施しています。

※子ども体験遊びリンピックの事業を実施する参加団体には、松本零士氏（漫画家）がデザインしたメダルと賞状をお送りします。



ガイドブック 「体験・遊びナビゲーター」

国立青少年教育振興機構では、自然の中での体験や遊びを紹介したガイドブック「体験・遊びナビゲーター」を作成しました。ホームページからダウンロードできます。



<https://www.niye.go.jp/taikenasobi/>

「チラシ・ポスター」「のぼり旗」をご活用ください。

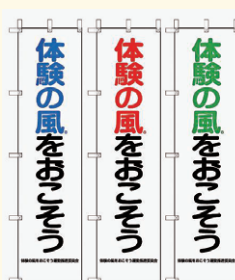
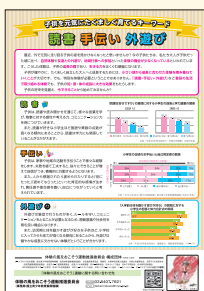
「体験の風をおこそう」運動の趣旨にご賛同いただける団体には、「チラシ・ポスター」「のぼり旗」を無料で配布しています。是非、事業での配布・掲示等にご活用ください。また、同運動のロゴマークも事業の開催案内に掲載する等ご活用いただいています。ご希望の場合は右ページ下部の「体験の風をおこそう運動推進委員会」までご連絡ください。



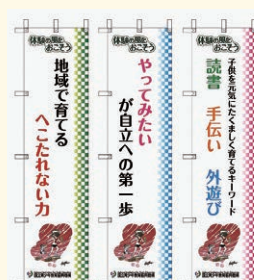
ロゴマーク



チラシ・ポスター



のぼり旗 ver.1



のぼり旗 ver.2

体験の風をおこそう運動推進委員会 構成団体 (敬称略50音順)

ガールスカウト日本連盟 国立青少年教育振興機構 自然体験活動推進協議会 社会通信教育協会 修養団 全国学校栄養士協議会 全国公民館連合会 全国子ども会連合会 全国児童養護施設協議会 全国スポーツ推進委員連合 全国ラジオ体操連盟 日本一輪車協会 日本キャンプ協会 日本青年団協議会 日本スポーツ協会日本スポーツ少年団 日本PTA全国協議会 日本ユースホステル協会 日本子守唄協会 日本レクリエーション協会 ハーモニイセンター ボーイスカウト日本連盟 [21団体]

「体験の風をおこそう」運動に関する問い合わせ先

体験の風をおこそう運動推進委員会
(事務局：国立青少年教育振興機構)

TEL 03-6407-7718 E-mail taikennokaze@niye.go.jp



<https://taikennokaze.jp/>



イメージイラスト：松本零士

「早寝早起き朝ごはん」国民運動



「早寝早起き朝ごはん」の励行など幼児期からの基本的な生活習慣の確立を目指して、平成18年に「早寝早起き朝ごはん」国民運動がスタートしました。
国や都道府県をはじめ、各地域や学校でそれぞれの実態に即した多様な取組が展開されています。

1 「早寝早起き朝ごはん」全国協議会

「早寝早起き朝ごはん」全国協議会は、子供の望ましい基本的な生活習慣を育成し、生活リズムを向上させ、読書や外遊び・スポーツなど様々な活動に取り組んでもらうとともに、地域全体で家庭の教育力を支える社会的機運の醸成を図るための「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進するために設立されました。PTAをはじめ、青少年・スポーツ団体、文化関係団体、読書・食育推進団体、企業など、幅広い関係団体等で構成されています。

当機構では、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の事務局を運営し、この国民運動を積極的に推進しています。

会長：遠山敦子（元文部科学大臣） 設立：平成18年4月24日 会員数：314
※令和5年3月現在

2 「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の取組

① 普及・啓発資料の作成・配布

「早寝早起き朝ごはん」とはどのようなものなのか、どのような効果があるのかを知っていただくために、各年齢期に合わせた普及・啓発資料を作成・配布しています。



資料はこちら

② ニュースレターの作成・発行

会員や都道府県に向け、データや活動報告等を記載したニュースレターを3か月ごとに発行しています。

③ 「早寝早起き朝ごはん」キャラバン隊事業

全国各地で、クイズや紙芝居等を行うなど、子供たちに「早寝早起き朝ごはん」に興味を持っていただけるようPRを行っています。



第8回春のキッズフェスタ



第10回秋のキッズフェスタ

④ 「早寝早起き朝ごはん」全国フォーラムの実施

専門家による講演やトークセッション等を通し、子供の生活リズムの重要性に対する知識や理解を深めることを目的として実施しています。

「早寝早起き朝ごはん」

全国協議会ホームページ <https://www.hayanehayaoki.jp/>



早ねくん



はやおきちゃん



あさ



みそしるちゃん



よめかしおに

© やなせたか

ゆで卵と生卵の
簡単な見分け方は？

オリンピック
メダリストが教える
簡単エクササイズって？

植木鉢で鶏の丸焼きが
できちゃう？

おうちにあるもので
ロケットや車が
作れちゃう？

お手伝いが楽しくなる
秘密兵器って？

おうちでできる
簡単うどん作りとは？

家族で楽しめる 体験や遊びが

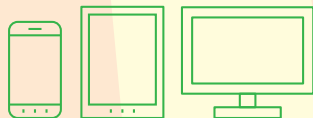
ここ👉 にあります！

今すぐチャンネル登録

YouTubeチャンネル「体験ちゃん」では「おうちで・家族と一緒に・簡単にチャレンジできる」体験や遊びを日本全国で活動する〇〇の家職員や各業界のプロフェッショナル(元オリンピックメダリストや日本代表選手など)が紹介します。

自然体験、文化体験、生活の知恵、科学学習、スポーツ・運動、創作活動など様々なジャンルの動画を月に4回程度配信します。

スマートフォンや
パソコンなどで
ご覧になれます。



体験・遊びを紹介するYouTubeチャンネル

たいけん 体験ちゃん

国立青少年教育振興機構

申請・採択状況

(3月31日現在)

令和5年度 活動区分別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	2,734	2,275	1,025,439
子どもの読書活動	271	239	112,604
教材開発・普及活動	27	12	75,657
合計	3,032	2,526	1,213,700

令和4年度 活動区分別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	3,221	2,497	1,078,838
子どもの読書活動	315	264	137,372
教材開発・普及活動	25	13	78,948
合計	3,561	2,774	1,295,158

令和5年度 都道府県別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

(単位：件)

都道府県	活動区分	申請	採択
北海道	体験活動	149	120
	読書活動	15	14
青森県	体験活動	19	16
	読書活動	4	4
岩手県	体験活動	30	20
	読書活動	2	2
宮城県	体験活動	22	18
	読書活動	2	1
秋田県	体験活動	14	12
	読書活動	4	4
山形県	体験活動	40	37
	読書活動	0	0
福島県	体験活動	16	16
	読書活動	5	3
茨城県	体験活動	45	35
	読書活動	1	0
栃木県	体験活動	42	35
	読書活動	6	6
群馬県	体験活動	36	32
	読書活動	2	2
埼玉県	体験活動	125	97
	読書活動	6	4
千葉県	体験活動	111	95
	読書活動	3	2
東京都	体験活動	412	338
	読書活動	57	47
神奈川県	体験活動	135	97
	読書活動	14	13
新潟県	体験活動	46	43
	読書活動	6	5
富山県	体験活動	16	14
	読書活動	0	0

都道府県	活動区分	申請	採択
石川県	体験活動	53	38
	読書活動	0	0
福井県	体験活動	9	8
	読書活動	2	1
山梨県	体験活動	32	22
	読書活動	2	2
長野県	体験活動	38	34
	読書活動	2	2
岐阜県	体験活動	31	29
	読書活動	0	0
静岡県	体験活動	55	47
	読書活動	6	5
愛知県	体験活動	97	84
	読書活動	5	4
三重県	体験活動	25	21
	読書活動	1	0
滋賀県	体験活動	30	28
	読書活動	7	7
京都府	体験活動	98	86
	読書活動	11	11
大阪府	体験活動	244	202
	読書活動	21	21
兵庫県	体験活動	113	98
	読書活動	12	10
奈良県	体験活動	62	58
	読書活動	6	5
和歌山県	体験活動	13	8
	読書活動	7	6
鳥取県	体験活動	4	2
	読書活動	5	5
島根県	体験活動	15	13
	読書活動	2	1

都道府県	活動区分	申請	採択
岡山県	体験活動	43	37
	読書活動	3	2
広島県	体験活動	12	11
	読書活動	1	0
山口県	体験活動	21	20
	読書活動	6	6
徳島県	体験活動	32	25
	読書活動	0	0
香川県	体験活動	15	13
	読書活動	2	1
愛媛県	体験活動	64	63
	読書活動	3	3
高知県	体験活動	19	16
	読書活動	1	1
福岡県	体験活動	147	119
	読書活動	11	11
佐賀県	体験活動	5	4
	読書活動	18	18
長崎県	体験活動	13	13
	読書活動	0	0
熊本県	体験活動	25	24
	読書活動	8	8
大分県	体験活動	18	9
	読書活動	1	1
宮崎県	体験活動	37	34
	読書活動	1	1
鹿児島県	体験活動	80	59
	読書活動	0	0
沖縄県	体験活動	26	25
	読書活動	0	0
合計	体験活動	2,734	2,275
	読書活動	271	239

子どもゆめ基金へのご協力を (ご寄附のお願い)

子どもゆめ基金は、子供たちの健全育成を推進するために、青少年教育に関する団体が行う様々な体験活動や読書活動などへの支援を行い、令和3年に20周年を迎えました。

これまでに、約6万件の活動が行われ、1千万人を超える子供たちがその活動に参加しました。

この基金では、個人、団体、法人等から寄附等のご支援をいただき、全国各地で良質な体験活動の機会を充実させていくこととしております。

本基金の趣意をご理解いただき、皆様方のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

振替口座		銀行口座	
口座番号	00150-5-371382	銀行名	三菱UFJ銀行 渋谷支店
口座名義	子どもゆめ基金	口座番号	普通預金 3025103
		口座名義	子どもゆめ基金

子どもゆめ基金 寄附専用サイト

<https://congrant.com/project/kodomoyumekikin/5987>

クレジットカードからの寄附ができるようになりました。



令和5年にご寄附をいただいた皆様

～皆様のご支援に心から感謝を申し上げます～

(あいうえお順・敬称略)

岡田 晴美
関西電力株式会社
共闘ことばRPGコトダマン コトダマー 一同(株式会社MIXI)
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
サントリービバレッジソリューション株式会社
ビジネスコーチ株式会社
村井 悠治
森田 秀作
ライフカード株式会社

(令和4年4月1日～令和5年12月31日)

このほかにも、たくさんの方々からのご支援をいただいております。

子どもゆめ基金ガイド 2023 2024年1月改訂

編 集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発 行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電 話 0120-579081（フリーダイヤル）

U R L <https://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

全国の国立青少年教育施設のご案内

- 青少年交流の家
- 青少年自然の家
- オリリンピック記念青少年総合センター

- | | |
|----------------------|---------------|
| ① 大雪青少年交流の家 | ⑩ 曾爾青少年自然の家 |
| ② 日高青少年自然の家 | ⑪ 淡路青少年交流の家 |
| ③ 岩手山青少年交流の家 | ⑫ 吉備青少年自然の家 |
| ④ 花山青少年自然の家 | ⑬ 三瓶青少年交流の家 |
| ⑤ 磐梯青少年交流の家 | ⑭ 江田島青少年交流の家 |
| ⑥ 那須甲子青少年自然の家 | ⑮ 山口徳地青少年自然の家 |
| ⑦ オリリンピック記念青少年総合センター | ⑯ 大洲青少年交流の家 |
| ⑧ 赤城青少年交流の家 | ⑰ 室戸青少年自然の家 |
| ⑨ 信州高遠青少年自然の家 | ⑱ 夜須高原青少年自然の家 |
| ⑩ 妙高青少年自然の家 | ⑲ 諫早青少年自然の家 |
| ⑪ 立山青少年自然の家 | ⑳ 阿蘇青少年交流の家 |
| ⑫ 能登青少年交流の家 | ㉑ 大隅青少年自然の家 |
| ⑬ 若狭湾青少年自然の家 | ㉒ 沖縄青少年交流の家 |
| ⑭ 中央青少年交流の家 | |
| ⑮ 乗鞍青少年交流の家 | |



交通案内(機構本部)

- 電車 小田急線各駅停車 参宮橋駅下車 徒歩約7分
地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分
- バス 京王バス 代々木5丁目バス停下車 徒歩約1分
- 車 首都高速4号線 代々木出入り口約100m
(大型バス) 新宿出入口 約2 km



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構



〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 TEL 03-3467-7201(代表)
<https://www.niye.go.jp>